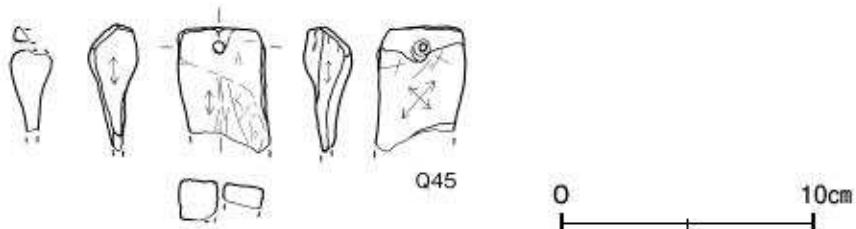


遺物出土状況 土師器片 28 点（坏 3, 壺類 25）、石器 1 点（砥石）のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。Q45 は、P 1 西側の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第 75 図 第 33 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 33 号堅穴建物跡出土遺物観察表（第 75 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	砥石	(5.0)	3.6	2.0	(35.77)	砂岩	1か所穿孔、4面使用 使用のため下半分摩滅	床面	PL38

第 34A 号堅穴建物跡（第 76 図 PL14・15）

位置 調査区南部の Q12j8 区、標高 35.0 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 中央部を第 34B 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びており、東西軸は 6.55m で、確認できた南北軸は 4.38m である。方形または長方形と推測され、南北軸方向は N - 41° - W である。壁は高さ 38 ~ 45cm で、直立している。

床 平坦である。壁下には、幅 6 ~ 18cm、深さ 8 cm の壁溝が北西壁下に巡っている。床面からは、炭化材や焼土が出土している。南西部には、太い柱材と推測されるものが遺存し、壁際には細かい材が散っている。

ピット 3 か所。P 1 は、径 22cm、深さ 42cm で、規模や配置から、主柱穴と考えられる。P 2・P 3 は、径 18 ~ 26cm、深さ 16cm で、性格は不明である。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 黒褐 色 炭化材・ローム粒子少量、焼土粒子微量	3 暗褐 色 ローム粒子少量
2 黒褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	

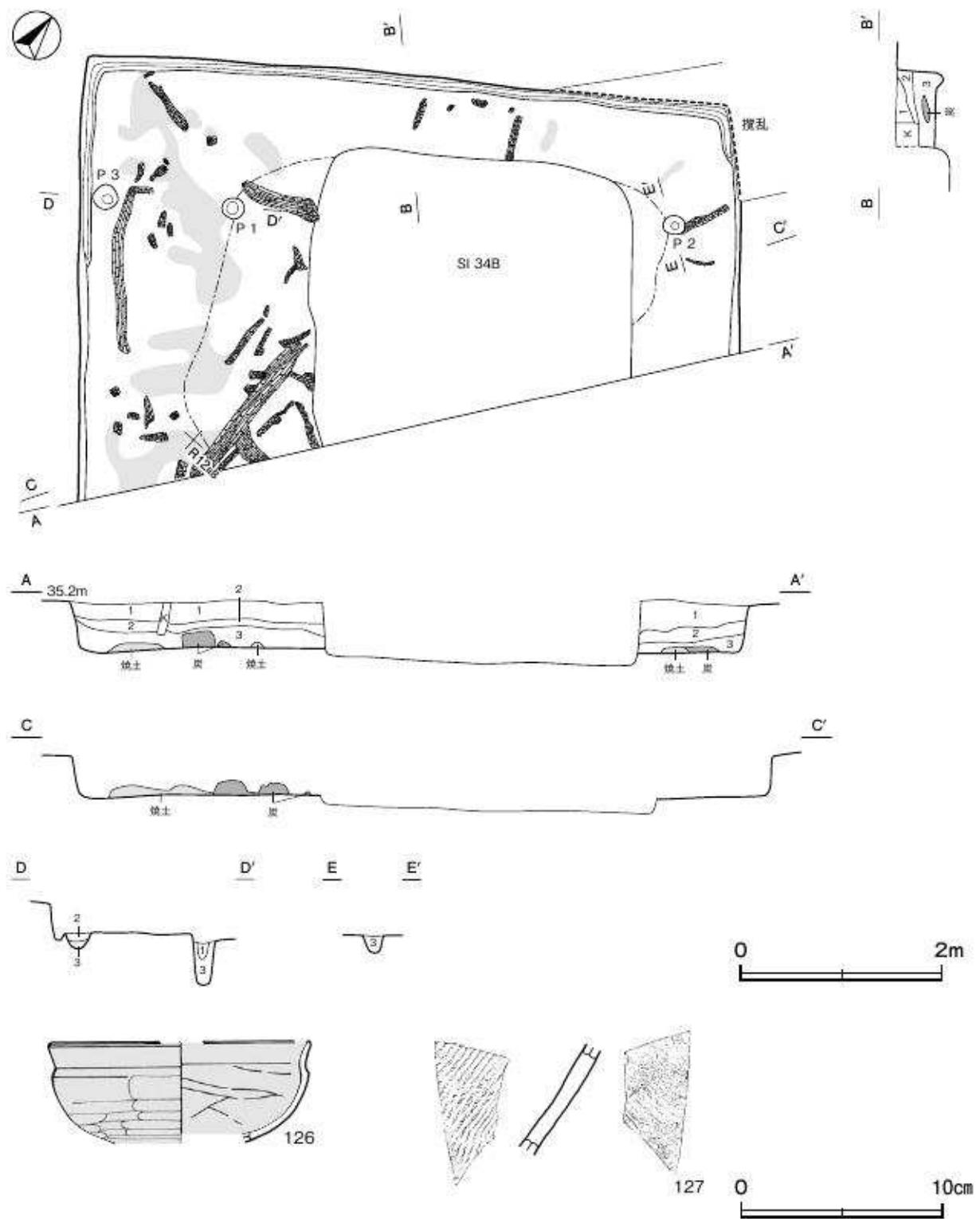
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックや炭化材・焼土が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	3 褐 色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子中量
2 暗褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	

遺物出土状況 土師器片 170 点（坏 19, 壺類 151）、須恵器片 1 点（壺類）のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）、石 2 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末葉と考えられる。床面から、炭化材及び焼土が出土していることから、焼失建物である。



第 76 図 第 34A 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 34A 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 76 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
126	土器	壺	[13.0]	(5.0)	-	長石・石英	橙	普通	外面横位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中	20%
127	須恵器	壺	-	(5.4)	-	長石・黒色粒子	褐灰	良好	外面横位の平行叩き 内面同心円状の当て具板	覆土中	5% 東海窯

第34B号竪穴建物跡（第77～79図 PL14・15）

位置 調査区南部のQ12j8区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第34A号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びており、東西軸は2.90m、確認できた南北軸は3.23mである。長方形と推測され、主軸方向はN-40°-Wである。壁は高さ47～63cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 北西壁寄りに位置している。長径70cm、短径48cmの楕円形である。

炉土層解説

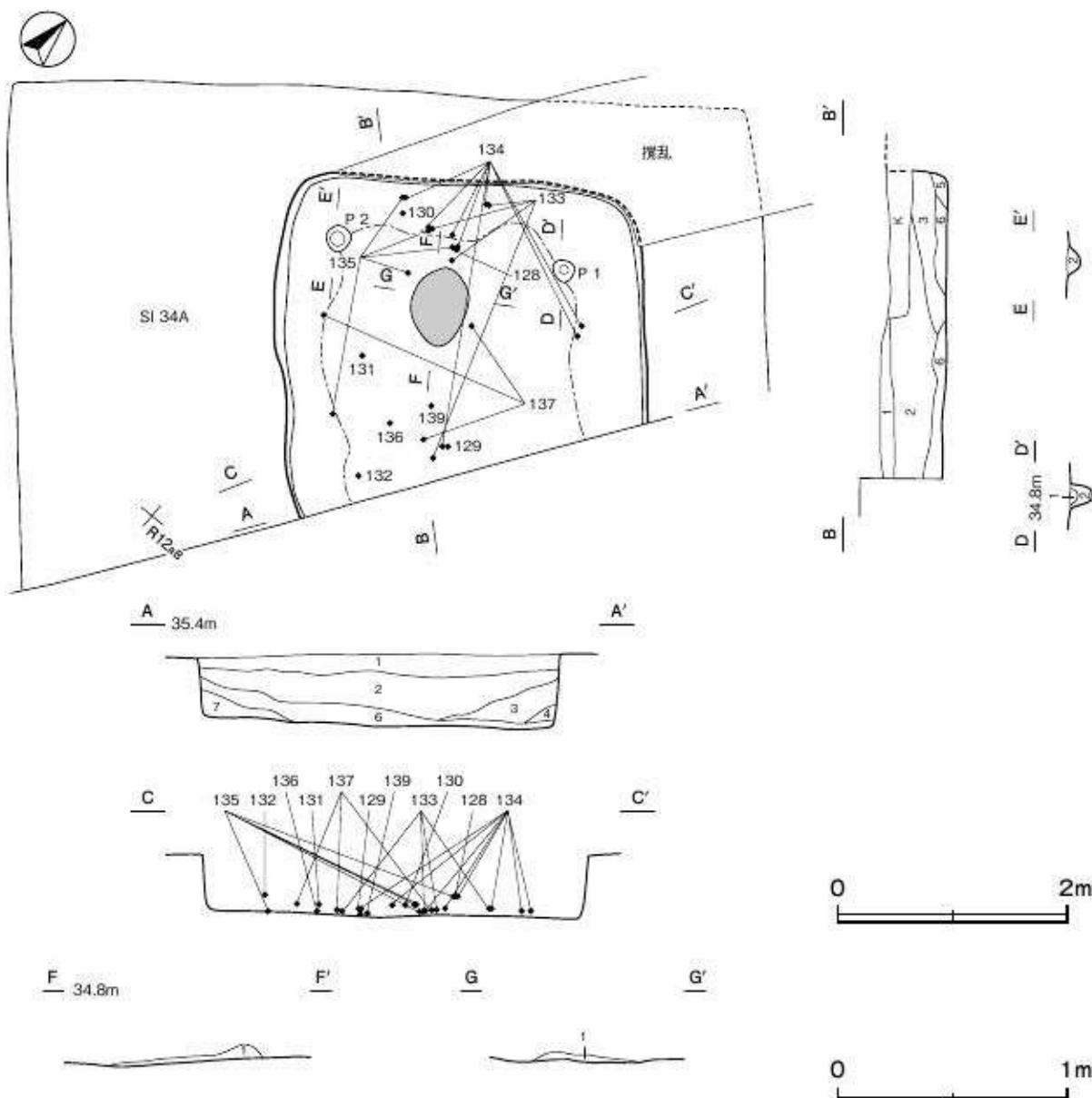
1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 2か所。P1・P2は、径20cm、深さ13～20cmで、位置から主柱穴と考えられる。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒 色 ローム粒子中量



第77図 第34B号竪穴建物跡実測図

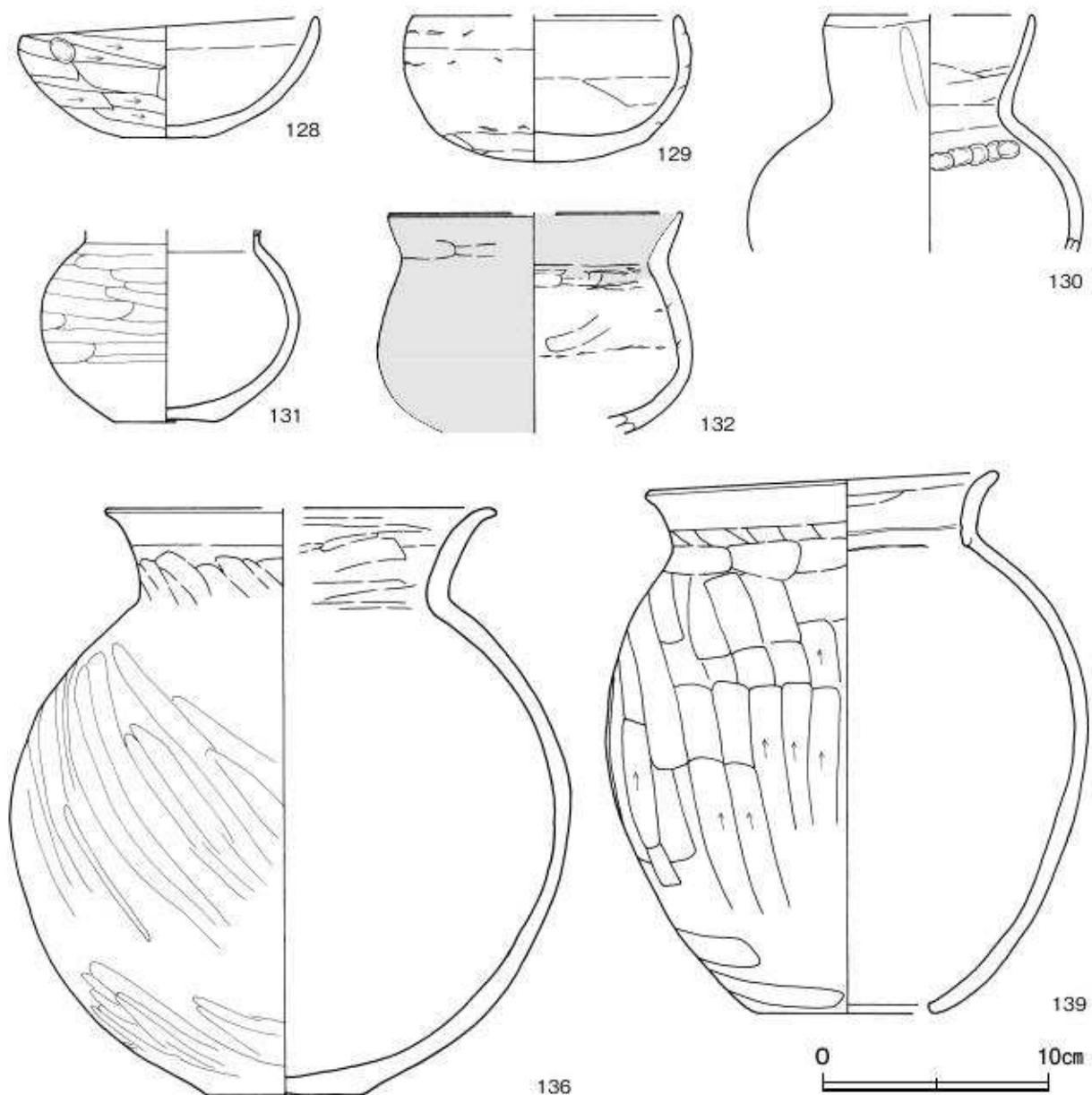
覆土 7層に分層できる。焼土や炭化材が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

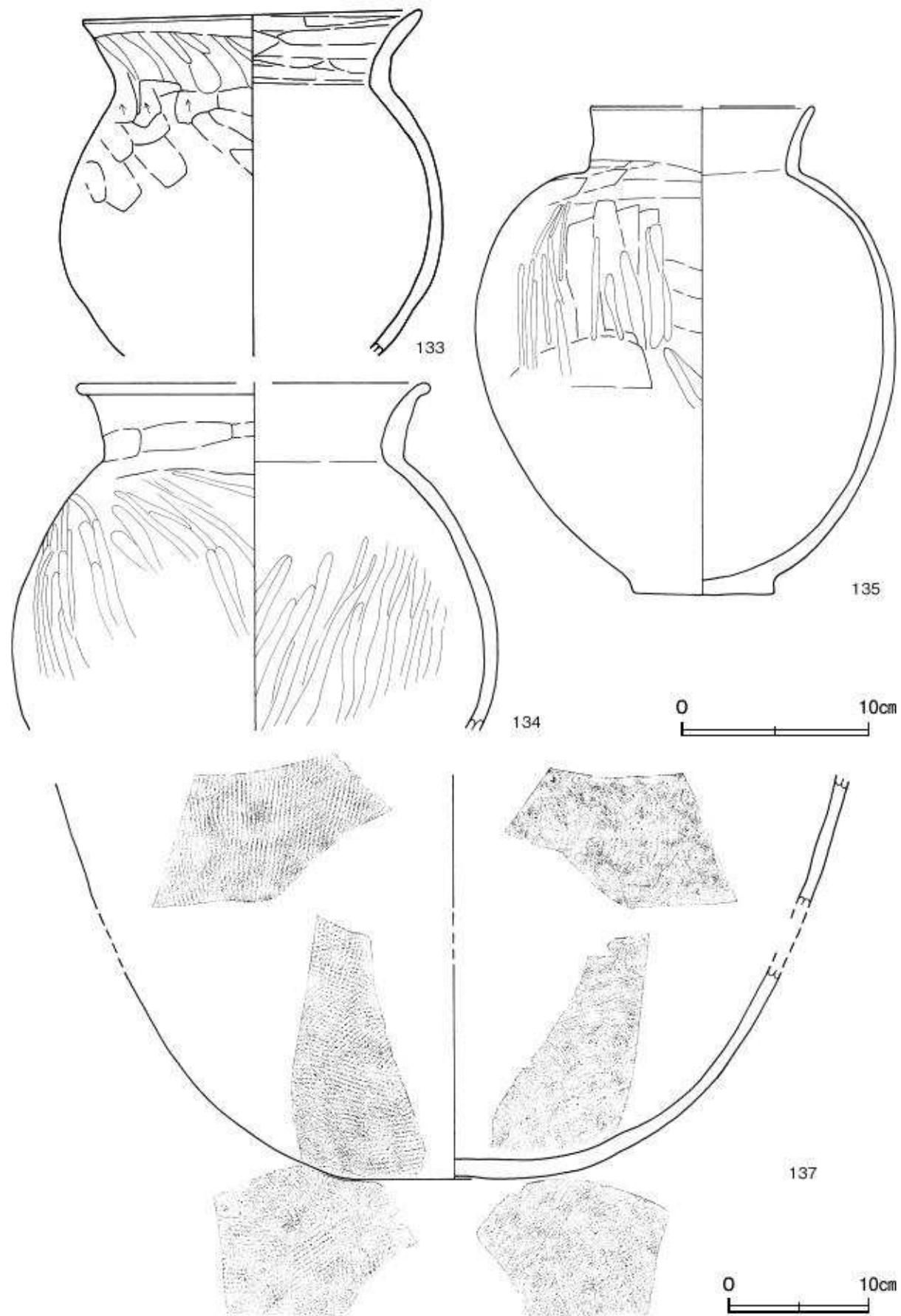
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 褐 色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	

遺物出土状況 土師器片 73 点（坏 2, 坩 2, 壺 1, 宽類 67, 甌 1），須恵器片 2 点（甌類）のほか、石 1 点が出土している。132 は南寄り、128・130 は北西壁寄りの覆土下層から出土している。129・136 は南寄り、131 は南西壁寄り、139 は中央の床面からそれぞれ出土している。133 は、床面全体に散った状態で出土した破片が接合した。135・137 は、覆土下層から床面にかけて散在した破片が接合したため、埋め戻しの際に投げ込まれたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末葉～6 世紀初頭と考えられる。



第 78 図 第 34B 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第79図 第34B号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第34B号竪穴建物跡出土遺物観察表（第78・79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
128	土師器	壺	13.1	5.4	3.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ削り 口縁部内面横位のヘラナデ	覆土下層	100% PL29
129	土師器	壺	[11.8]	6.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面ヘラナデ	床面	60% PL30
130	土師器	壺	[9.0]	(10.5)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	口縁部外面縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ 体部内面指痕裏	覆土下層	30% PL32
131	土師器	壺	-	(8.5)	4.6	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	体部外面横位のヘラ磨き 内面摩滅のため不明	床面	80% PL32
132	土師器	壺	[12.9]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ヘラナデ	覆土下層	30%
133	土師器	壺	18.2	(18.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外面縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ	床面	60%
134	土師器	壺	[18.8]	(19.1)	-	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐色	普通	口縁部外面横位のヘラナデ 体部外・内面ヘラ磨き	覆土下層	40%
135	土師器	壺	[11.8]	26.3	7.2	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐色	普通	外面ヘラナデ後ヘラ磨き 内面摩滅のため不明	覆土下層～床面	70%
136	土師器	壺	[16.8]	26.0	6.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面縦位のヘラナデ 内面横位のヘラナデ 体部外面ヘラ磨き	床面	90% PL35
137	須恵器	壺	-	(24.5)	14.0	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き 内面同心円状の当て痕	覆土下層～床面	15% 東海道
139	土師器	瓶	15.4	24.0	7.8	長石・石英・繊維	にぶい黄緑	普通	外表面のヘラ削り後ヘラナデ	床面	90% PL34

第35号竪穴建物跡（第80・81図）

位置 調査区中央部のP11e0区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 大部分が搅乱により壊されている。確認できた範囲から、長軸6.33m、短軸5.97mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ22～35cmで、直立している。

床 平坦である。床面からは、炭化材や焼土がまばらに出土している。

炉 2か所。中央部寄りに炉1、北壁寄りに炉2が位置している。炉1は、長径54cm、短径44cmの梢円形で、深さ2～6cmの地床炉である。炉2は搅乱により大部分が壊されているが、推定長径82cm、短径70cmの不整梢円形の地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量

2 明赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は、径18～26cm、深さ90～100cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕跡と推測される。P5は径24cm、深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量、焼土粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

貯蔵穴 南壁際の中央部に位置している。径70cmの円形である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

3 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化材少量、焼土粒子微量

覆土 2層に分層できる。搅乱により、堆積状況は不明である。

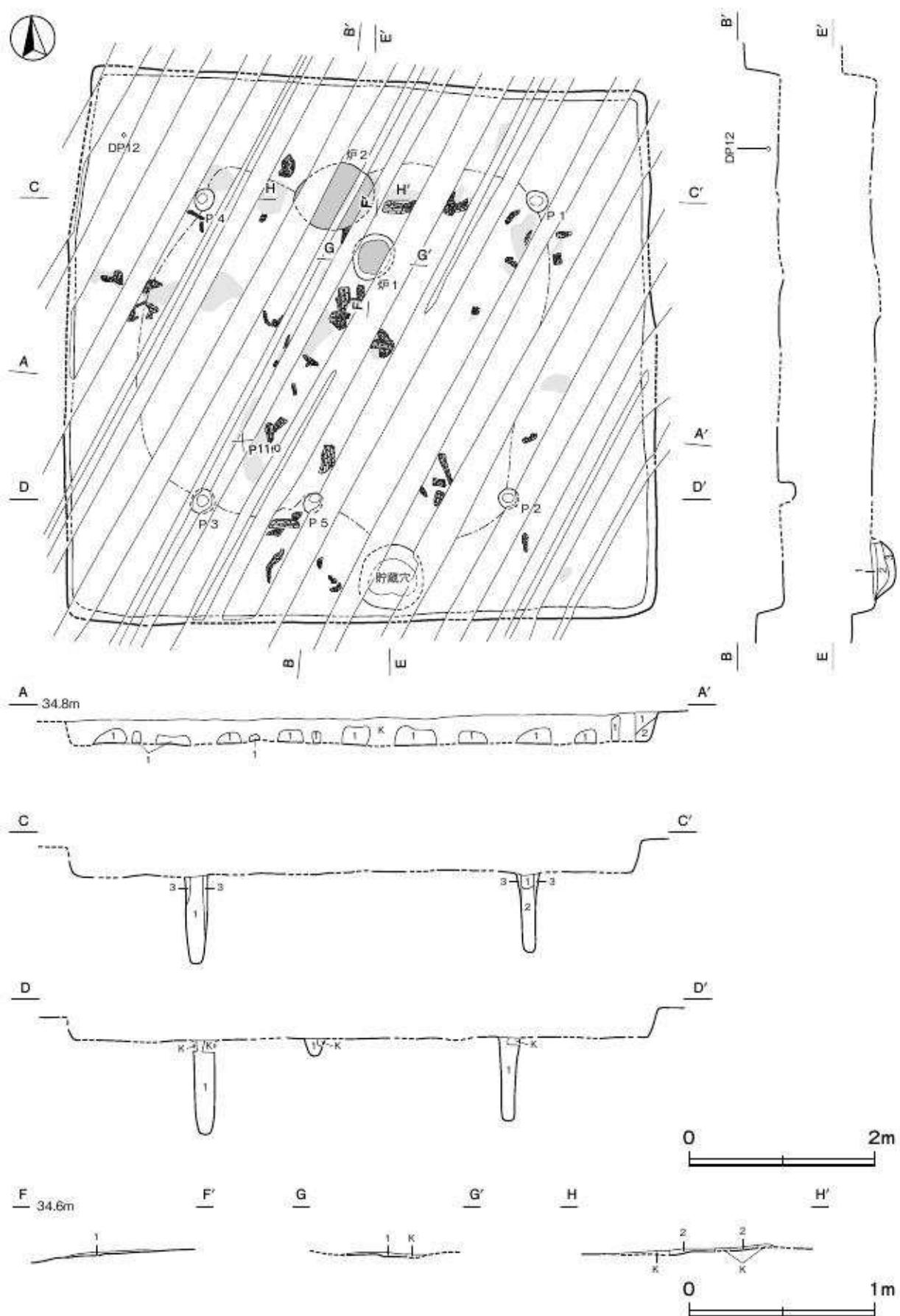
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量

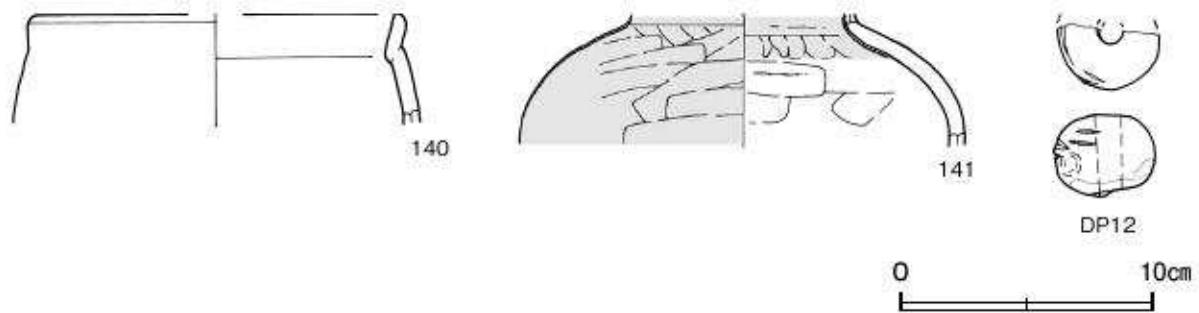
2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片39点（壺13、椀1、埴2、壺1、甕類22）、土製品1点（土玉）のほか、縄文土器片1点（深鉢）、石1点が出土している。DP12は、北西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。床面から、焼土や炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第80図 第35号竪穴建物跡実測図



第 81 図 第 35 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 81 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
140	土師器	瓶	[14.0]	(4.4)	—	長石	橙	普通	外・内面摩滅のため不明	覆土中	5%
141	土師器	壺	—	(5.2)	—	長石・石英	橙	普通	外・内面ハラ削り後ハラナデ	覆土中	5%
DP12	土玉	4.0	3.15	1.0	(25.32)	長石・石英	にぶい黄橙	—	一方向からの穿孔。一部指頭痕	覆土下層	

第 36 号竪穴建物跡 (第 82・83 図 PL15)

位置 調査区中央部の P12e6 区、標高 35.0 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.30m、短軸 5.24m の方形で、主軸方向は N - 27° - W である。壁は高さ 40 ~ 44cm で、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅 11 ~ 15cm、深さ 4 ~ 7 cm の壁溝が全周している。間仕切り溝は 5 条あり、長さ 63 ~ 90cm、深さ 3 ~ 7 cm である。うち 4 条は、壁際から P 1・P 4・P 6・P 7 にまっすぐ延びて接している。残りの 1 条は、貯蔵穴の西側の壁際から中央に延びている。

炉 北西壁寄りに 1 か所。長径 101cm、短径 79cm の不整梢円形で、深さ 13cm の地床炉である。

炉土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 純赤褐色 炭化粒子中量 ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 焼土粒子中量 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 焼土粒子中量 ロームブロック少量 |

ピット 10 か所。P 1 ~ P 4 は、径 21 ~ 40cm、深さ 76 ~ 91cm で、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕跡と推測される。P 5 は、径 26cm、深さ 26cm で、位置から出入口施設に伴うピットである。P 6・P 7 は径 18 ~ 27cm、深さ 45 ~ 49cm で、補助柱穴と考えられる。P 8 ~ P10 は、径 15 ~ 30cm、深さ 19 ~ 25cm で、性格は不明である。

ピット土層解説 (P 1・P 3・P 4共通)

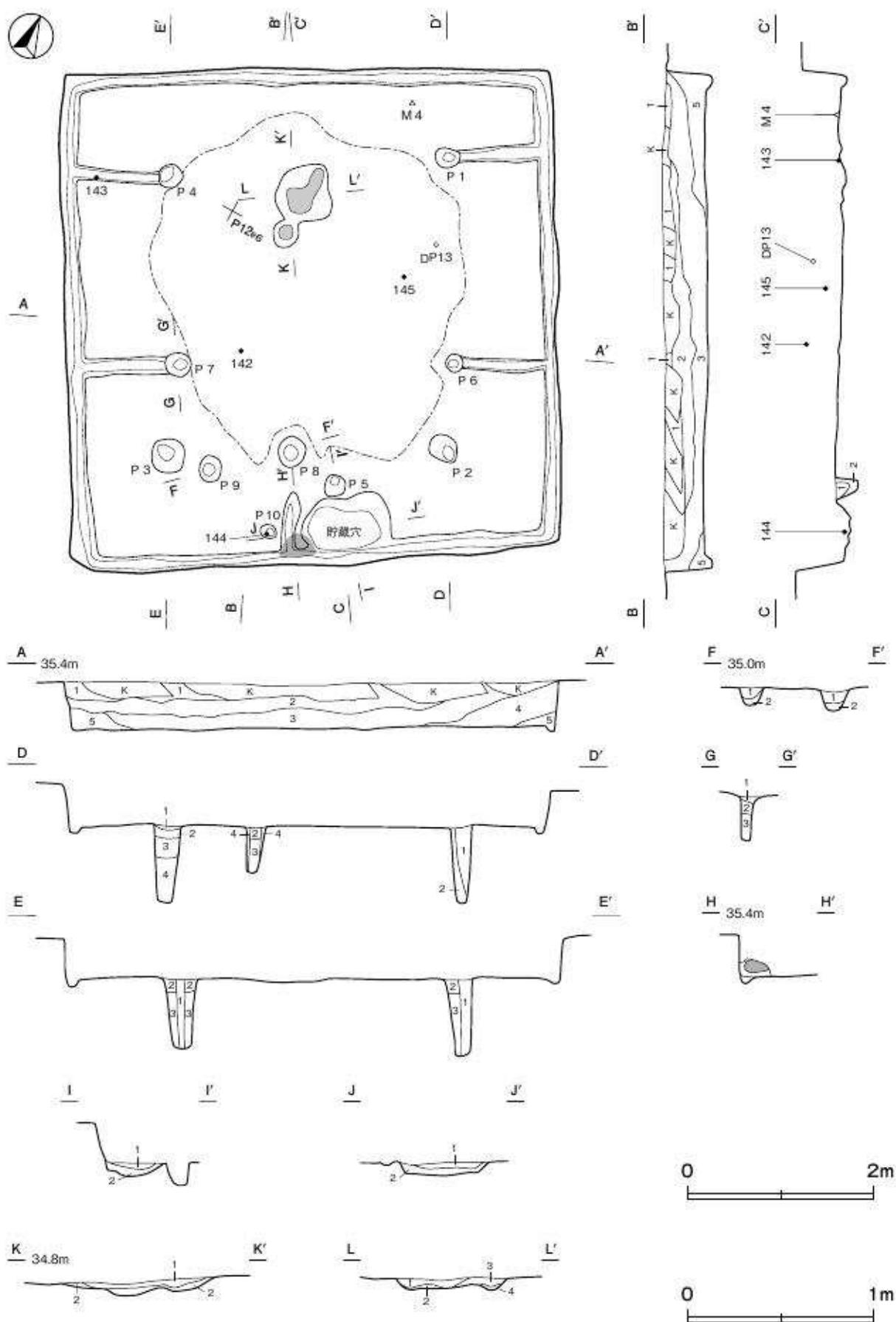
- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 純赤褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | |

ピット土層解説 (P 2)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

ピット土層解説 (P 5)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黑褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|---------------------------|------------------------|



第82図 第36号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説 (P 6・P 7)

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
4 褐色 ローム粒子少量

ピット土層解説 (P 8・P 9)

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ローム粒子中量

貯蔵穴 南東壁際の中央部に位置している。長径 97cm、短径 58cm の不整梢円形である。深さは 14cm で、壁は外傾しており、底面は凹凸している。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 黒褐色 ロームブロック少量

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックや焼土、炭化材が含まれていることから、埋め戻されている。

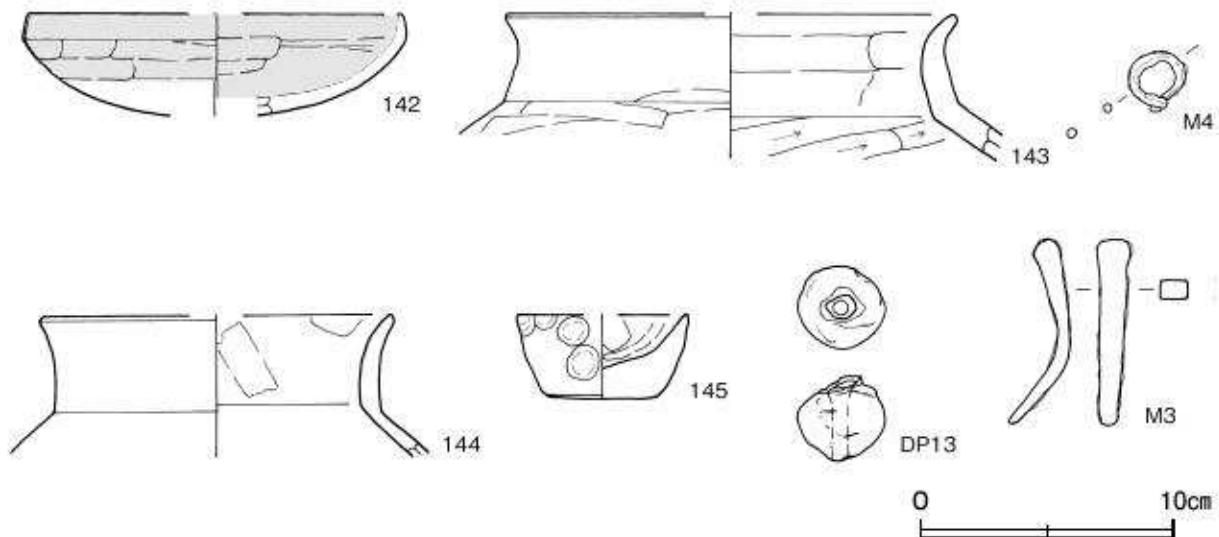
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 267 点（坏 95、高坏 1、甕類 170、手捏土器 1）、土製品 1 点（土玉）、鉄製品 2 点（釘カ、不明）のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）が、北側上層部を中心に散乱した状態で出土している。142 は中央部の覆土中層から出土している。143 は南西壁際の間仕切り溝内から、144 は南東壁際の P10 内からそれぞれ出土している。145 は中央部の覆土下層から、DP13 は覆土中層からそれぞれ出土している。M 4 は北西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉と考えられる。



第 83 図 第 36 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 83 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	土師器	坏	[14.7]	(4.0)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外・内面横粒のヘラナデ	覆土中層	10%
143	土師器	甕	[17.6]	(5.8)	-	長石・石英・黒色粒子・縫隙	橙	普通	口縁部内面横粒のヘラナデ・頸部外面横粒のヘラナデ・内面ハラ削り	間仕切り溝内	5 %
144	土師器	甕	[13.8]	(5.6)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部ヘラナデ	P10 内	5 %
145	土師器	手捏土器	[6.6]	3.3	4.3	長石・石英・縫隙	にぶい黄褐	普通	体部外面指頭痕 内面指ナデ	覆土下層	70% PL37

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP13	土玉	35	34	12	2969	長石・石英	明褐色	ナメ 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	釘か	7.40	1.35	2.50	2013	鉄	中央部頸曲	覆土中	PL41
M 4	不明 鉄製品	2.45	2.35	0.35	201	鉄	環状 端部交差	床面	PL41

第37号竪穴建物跡（第84・85図 PL15）

位置 調査区東部のO1316区、標高35.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第243・244・259・274号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.13m、短軸6.06mの方形で、主軸方向はN-36°Wである。壁は高さ28~38cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅8~15cm、深さ7~9cmの壁溝が全周している。

炉 2か所。ほぼ中央部に炉1、北西壁寄りに炉2が位置している。炉1は、長径42cm、短径40cmの不整円形である。炉2は、長径103cm、短径92cmの不整梢円形で、深さ6cmの地床炉である。

炉2土層解説

1 暗褐色 槙土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は径22~28cm、深さ90~101cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕跡と推測される。P 5は、径26cm、深さ16cmで、炉に対峙する壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 暗褐色 ローム粒子中量

4 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ローム粒子中量

5 暗褐色 ローム粒子少量

3 褐色 ロームブロック中量

貯蔵穴 南東壁際の中央部に位置している。長径85cm、短径78cmの円形である。深さは34cmで、壁は外傾し、底面は皿状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

3 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

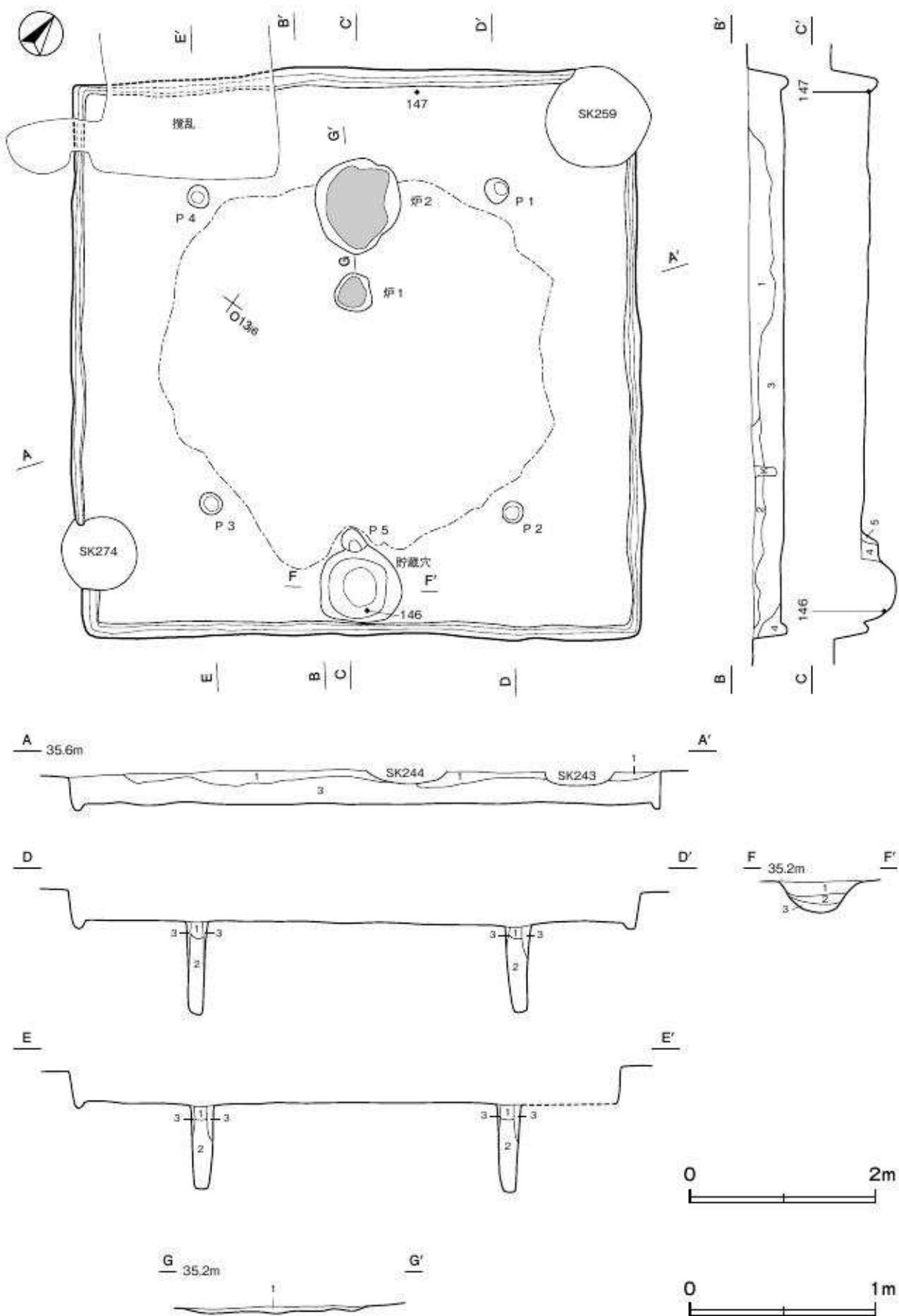
3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

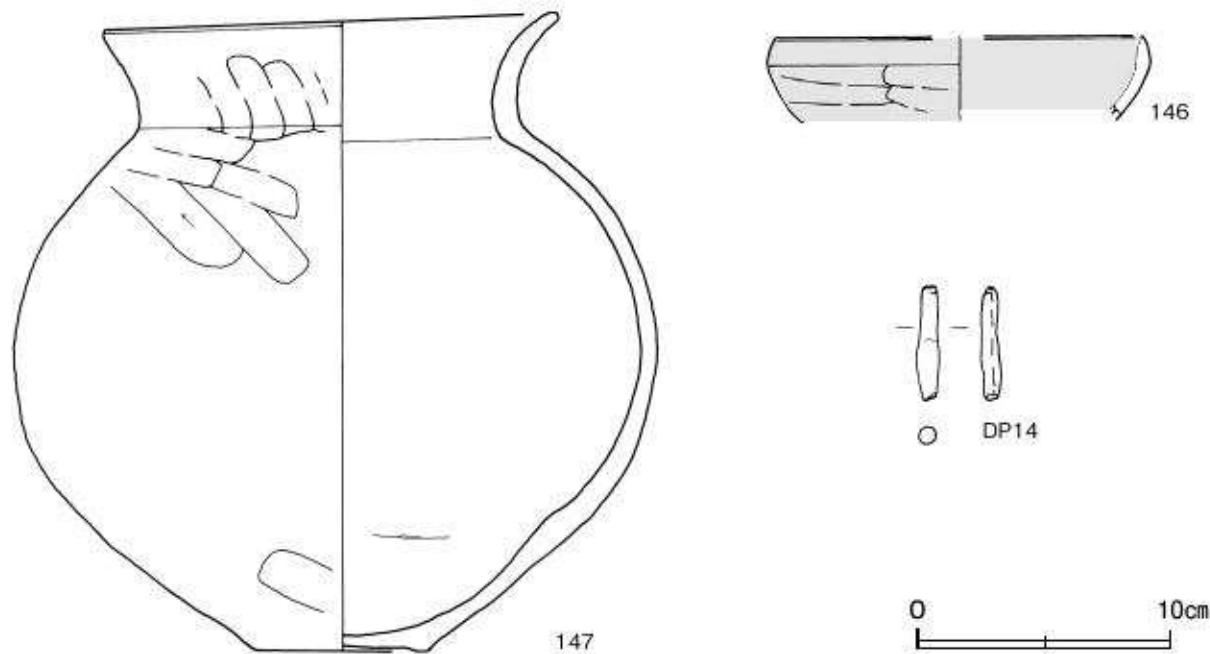
4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片99点（坏1、甕類98）、土製品1点（不明）が出土している。146は貯蔵穴内から出土している。147は北西壁際の床面から、斜位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第84図 第37号竪穴建物跡実測図



85図 第37号竪穴建物跡出土遺物実測図

第37号竪穴建物跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
146	土器	壺	[14.5]	(3.3)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	外面横位のヘラナデ 内面摩滅のため不明	貯藏穴内	5%
147	土器	甕	17.8	25.3	6.8	長石・石英	にぶい棕	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面摩滅のため不明	床面	90% PL35

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP14	不明 土製品	0.8	4.5	—	3.31	長石・石英	棕	粘土紐を焼成したような形状	覆土中	

第38号竪穴建物跡（第86・87図 PL16）

位置 調査区東部のO12i9区、標高35.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.65m、短軸5.35mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁は高さ50~56cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅9~15cm、深さ4~7cmの壁溝がほぼ全周している。

炉 3か所。中央部に炉1、北壁寄りに炉2、P4の東側に炉3が位置する。炉1は、長径96cm、短径50cmの梢円形で、深さ10cmの地床炉である。炉2は、長径56cm、短径55cmの円形で、深さ7cmの地床炉である。炉3は、長径38cm、短径32cmの梢円形で、深さ5cmの地床炉である。

炉土層解説（炉1・炉2共通）

1 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

炉土層解説（炉3）

1 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1～P 4は、径27～34cm、深さ70～81cmで、規模や配置から、主柱穴である。土層から、柱痕跡と推測される。P 5は、径18cm、深さ15cmで、位置から出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説（全ピット共通）

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |

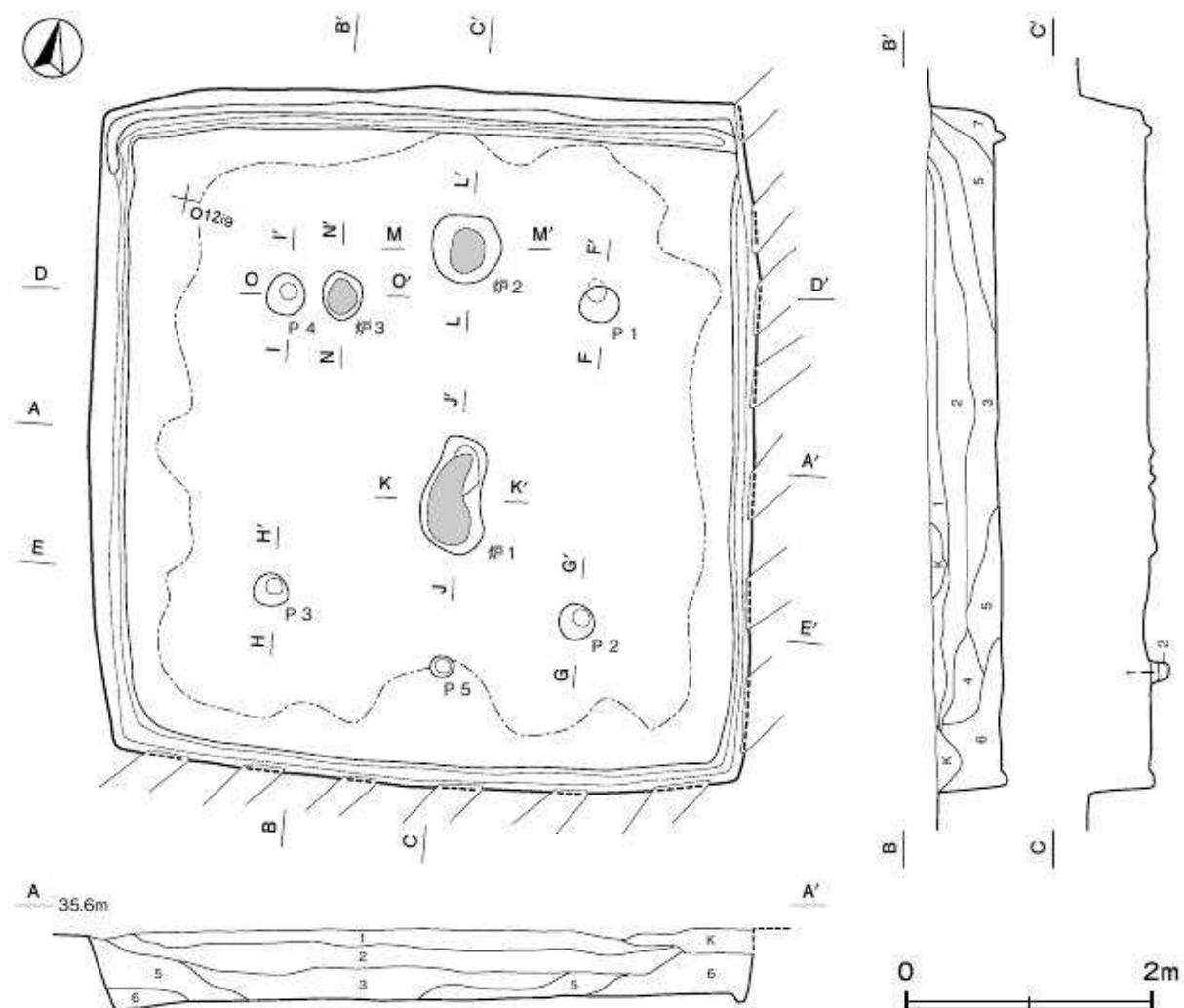
覆土 7層に分層できる。第1・2層は、レンズ状の堆積をしていることから、自然堆積である。第3～7層は、ロームブロックや炭化材・焼土が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

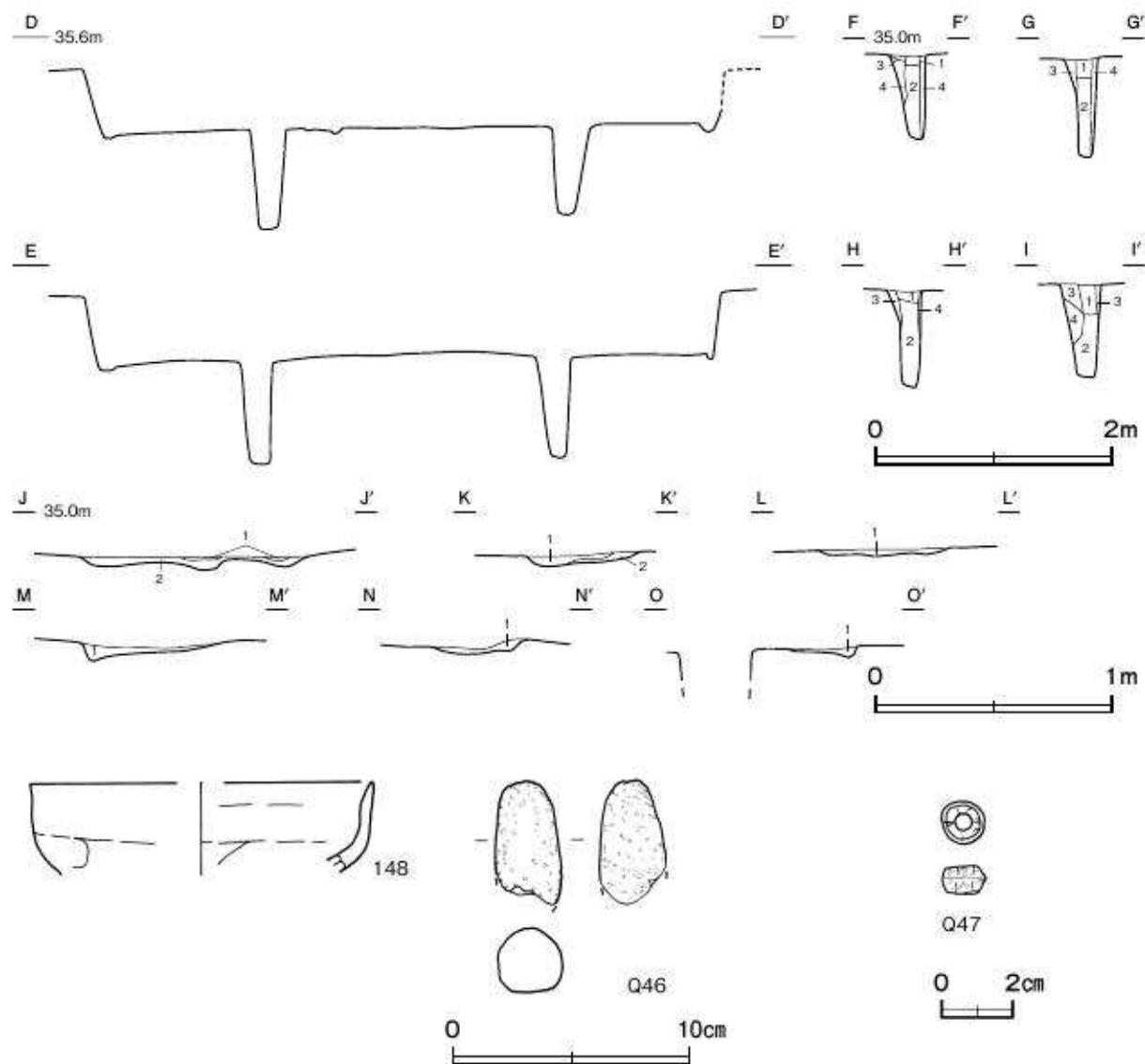
- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片43点（壺9、高壺1、甕類33）、須恵器片1点（甕類）、石器1点（軽石）、石製品1点（臼玉）が出土している。遺物は、すべて覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第86図 第38号竪穴建物跡実測図



第 87 図 第 38 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 38 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 87 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
148	土器	壺	[14.6]	(3.8)	—	長石・石英 赤色粘子	赤褐色	普通	外・内面横位のヘラナデ	覆土中	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q46	軽石	(5.2)	2.9	2.8	(7.71)	軽石	棒状に加工	カ	覆土中	被然	
Q47	白玉	0.6	0.6	0.4	0.20	滑石	両面平拭、全面研磨加工、一方向からの穿孔。 中央に核を有する 孔径 0.2cm		覆土中	PL39	

第 39 号竪穴建物跡（第 88・89 図）

位置 調査区東部の O13g1 区、標高 35.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 256 ~ 258 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が搅乱を受けているが、一辺が 5.73m の方形と推定され、主軸方向は N - 3° - W である。壁は高さ 2 ~ 10cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 2か所。中央部に炉 1、北壁寄りに炉 2 が位置している。炉 1 は、長径 28cm、短径 25cm の円形で、深さ 2cm の地床炉である。炉 2 は、長径 64cm、短径 44cm の楕円形で、深さ 2cm の地床炉である。

炉土層解説 (炉 1・炉 2 共通)

1 暗褐色 塗土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

ピット 2か所。P 1・P 2 は、径 23 ~ 32cm、深さ 23・21cm で、位置から主柱穴の可能性がある。

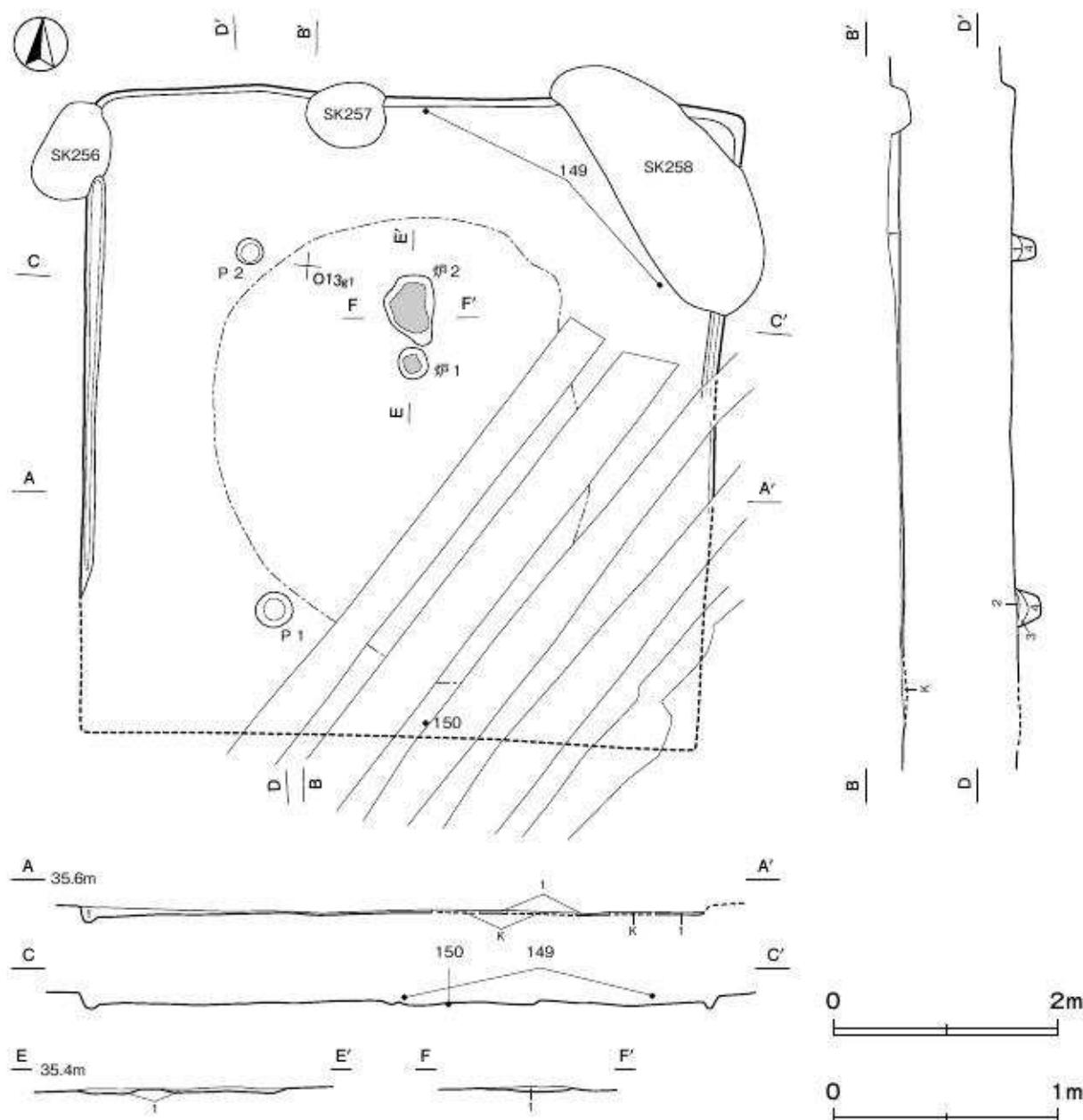
ピット土層解説

1 暗褐色 塗土粒子少量、炭化粒子少量

2 赤褐色 塗土粒子中量、炭化粒子少量

3 暗褐色 炭化粒子少量、塗土粒子微量

4 褐色 塗土粒子微量

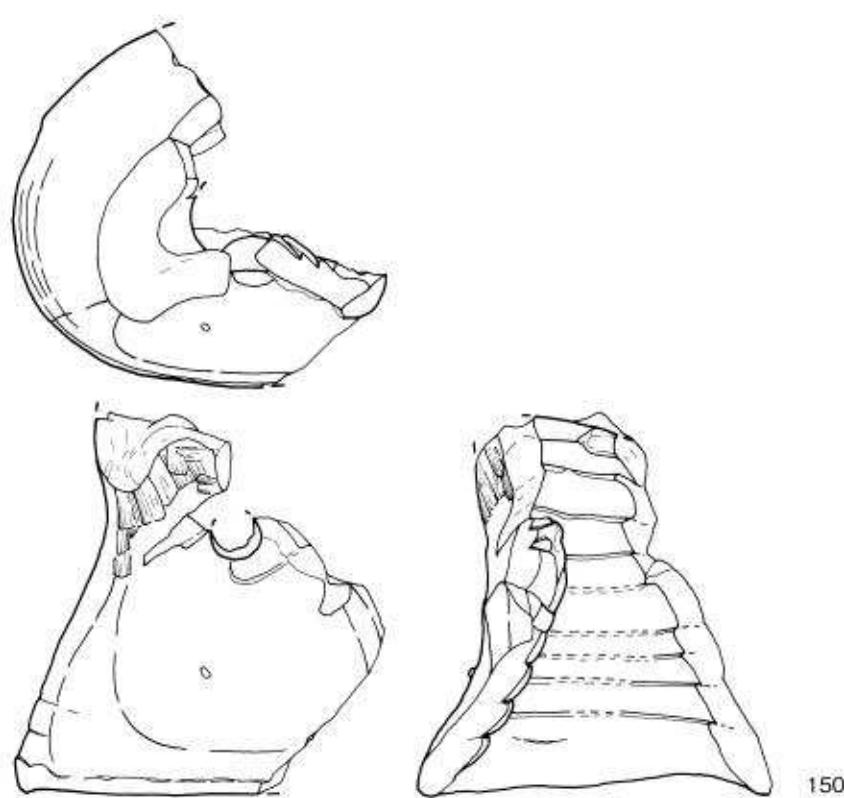
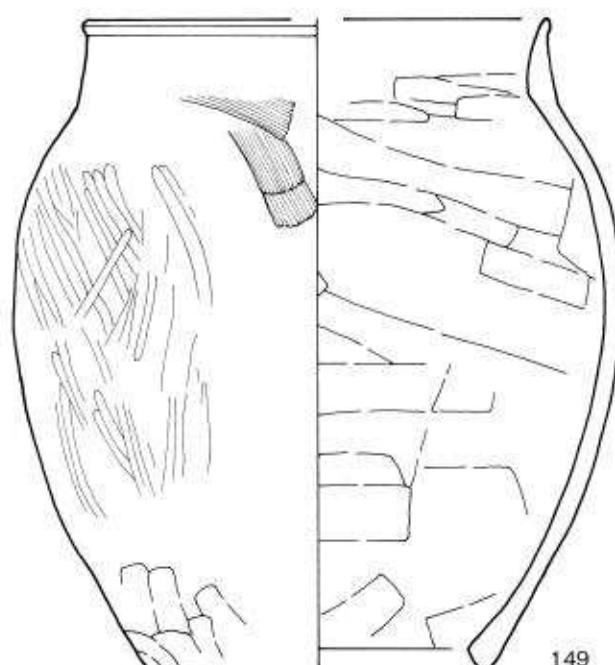


第 88 図 第 39 号竪穴建物跡実測図

覆土 単一層である。堆積が薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量



第89図 第39号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 12 点（壺 4、甕類 6、瓶 1、炉器台 1）が出土している。149 は北壁寄り、150 は南壁寄りの床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。

第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 89 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	土師器	甕	[18.4]	25.7	[13.6]	長石・石英・赤色鉱物	明赤褐色	普通	外面縦條のヘラ磨き 一部クシ目 ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	30%

番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
150	土師器	炉器台	(15.1)	(14.8)	(14.2)	長石・石英・無機物	にぶい褐色	普通	内面輪横模、正面中央部穿孔	床面	PL36

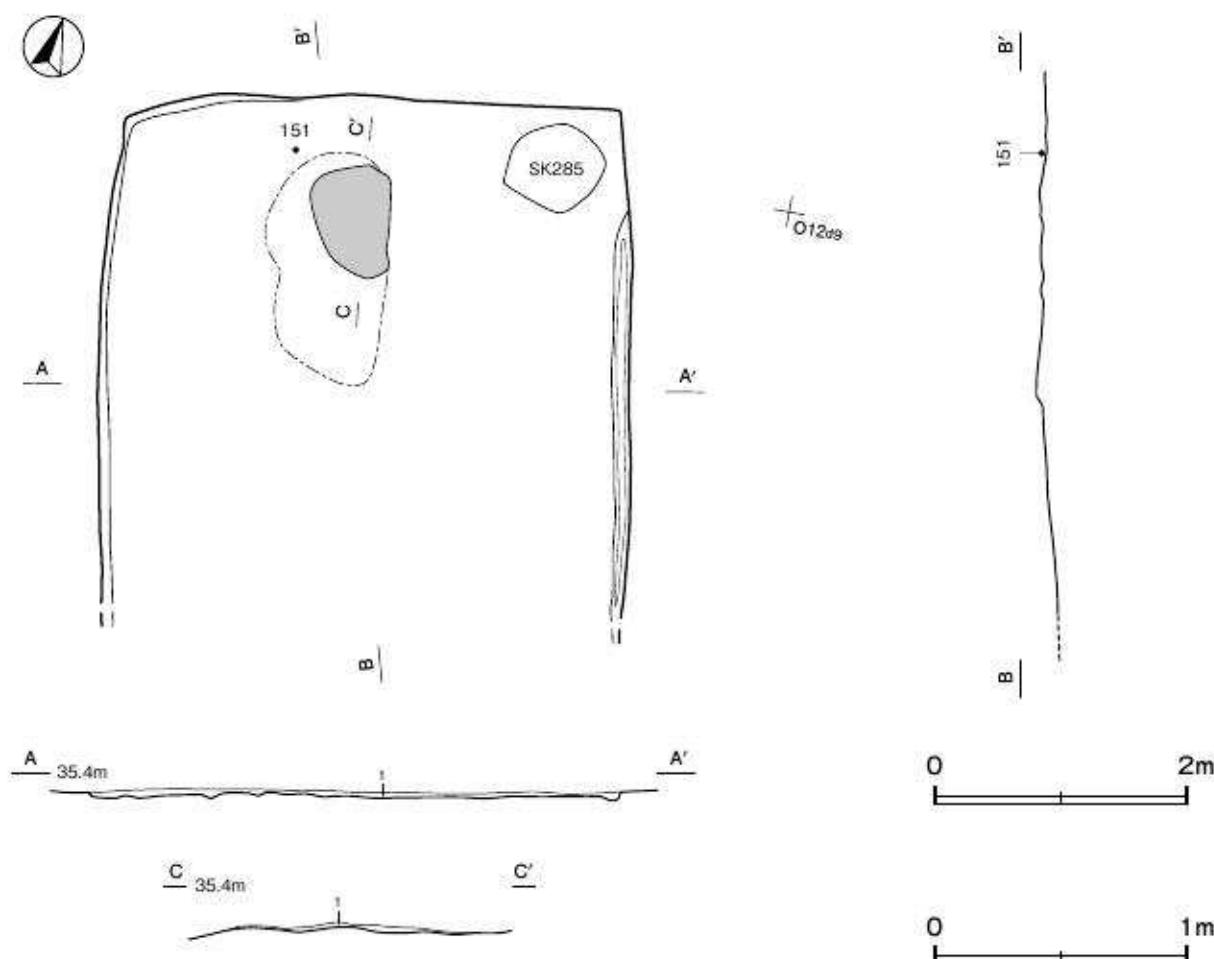
第 40 号竪穴建物跡（第 90・91 図）

位置 調査区東部の O12d8 区、標高 35.0 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 285 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部は削平のため、壁が確認できなかったが、東西軸 4.20m、確認できた南北軸 4.04m である。

方形と推定され、主軸方向は N - 8° - W である。壁は高さ 3 cm である。



第 90 図 第 40 号竪穴建物跡実測図

床 やや凹凸があり、炉の周りが踏み固められている。東壁下の一部に壁溝が巡っており、幅9~10cm、深さ3cmである。

炉 北壁寄りに位置している。長径90cm、短径63cmの不整椭円形で、深さ1~4cmの地床炉である。

炉土層解説

1 暗褐色 烧土粒子中量、ローム粒子少量

覆土 単一層である。堆積が薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片55点（坏7、甕類47、手捏土器1）が出土している。151は、北壁寄りの床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第91図 第40号竪穴建物跡出土遺物実測図

第40号竪穴建物跡出土遺物観察表（第91図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
151	土師器	手捏土器	[11.0]	(4.4)	—	板石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	外・内面指ナデ	床面	20%

第41号竪穴建物跡（第92図）

位置 調査区南部のR12c3区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第370号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が削平されており、東西軸は4.28m、確認できた南北軸は3.68mである。長方形と推測され、主軸方向はN-19°-Wである。壁は高さ4~10cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦である。

炉 北壁寄りに位置している。長径57cm、短径55cmの円形で、深さ3cmの地床炉である。

炉土層解説

1 暗赤褐色 烧土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は径26~42cm、深さ22~14cmで、配置から主柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

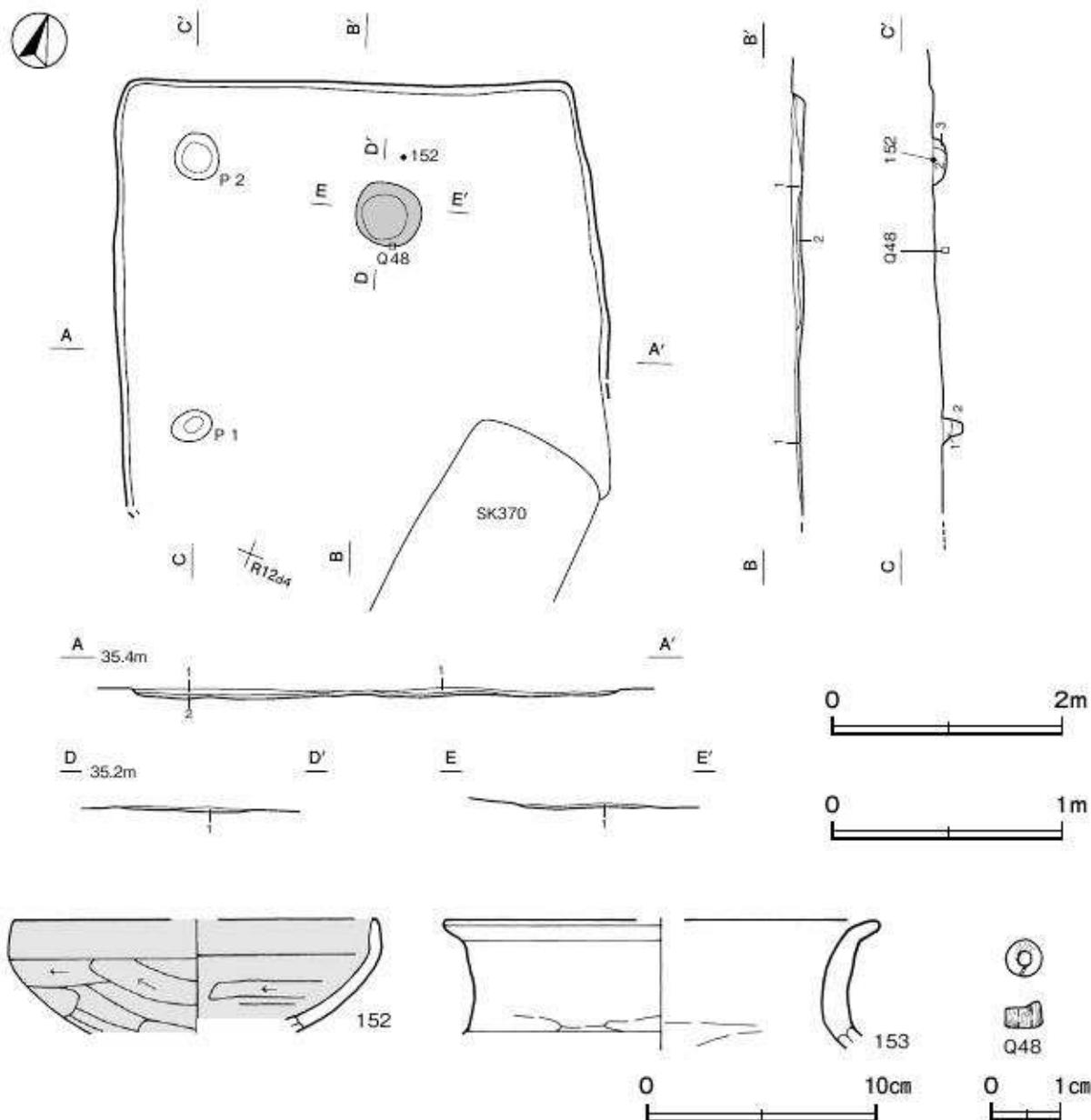
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片79点（壺7、甕類72）、石製品1点（白玉）のほか、弥生土器片3点（広口壺）が出土している。152は、北壁寄りの床面から出土している。Q48は、炉内から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。



第92図 第41号竪穴建物跡・遺物実測図

第41号竪穴建物跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
152	土師器	壺	[15.7]	(4.9)	-	長石・石英 黒色粒子	にぶい橙	普通	外・内面ペラ削り	床面	10%
153	土師器	甕	[18.7]	(5.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ペラナダ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q48	白玉	0.53	0.53	0.41	0.16	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.17 - 0.18cm	炉内	PL39

第42号竪穴建物跡（第93・94図 PL16・17）

位置 調査区南東部のP13a9区、標高35.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第260～263号土坑に掘り込まれている。

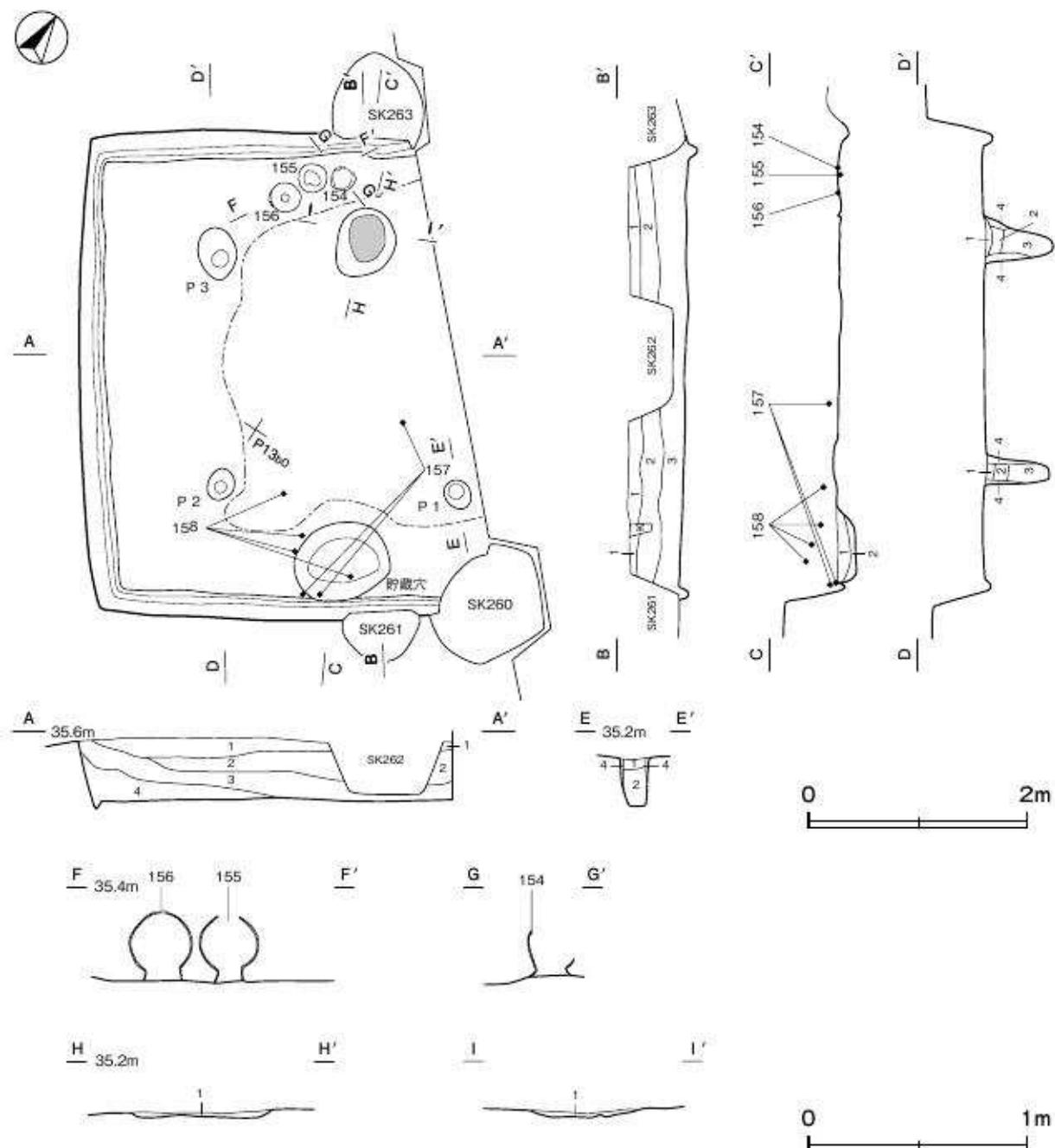
規模と形状 北東部が調査区域外に延びているため、北西・南東軸は4.45mで、北東・南西軸は3.67mしか確認できなかった。方形と推測され、主軸方向はN-36°-Wである。壁は高さ54～60cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には、幅10～15cm、深さ8cmの壁溝が巡っている。

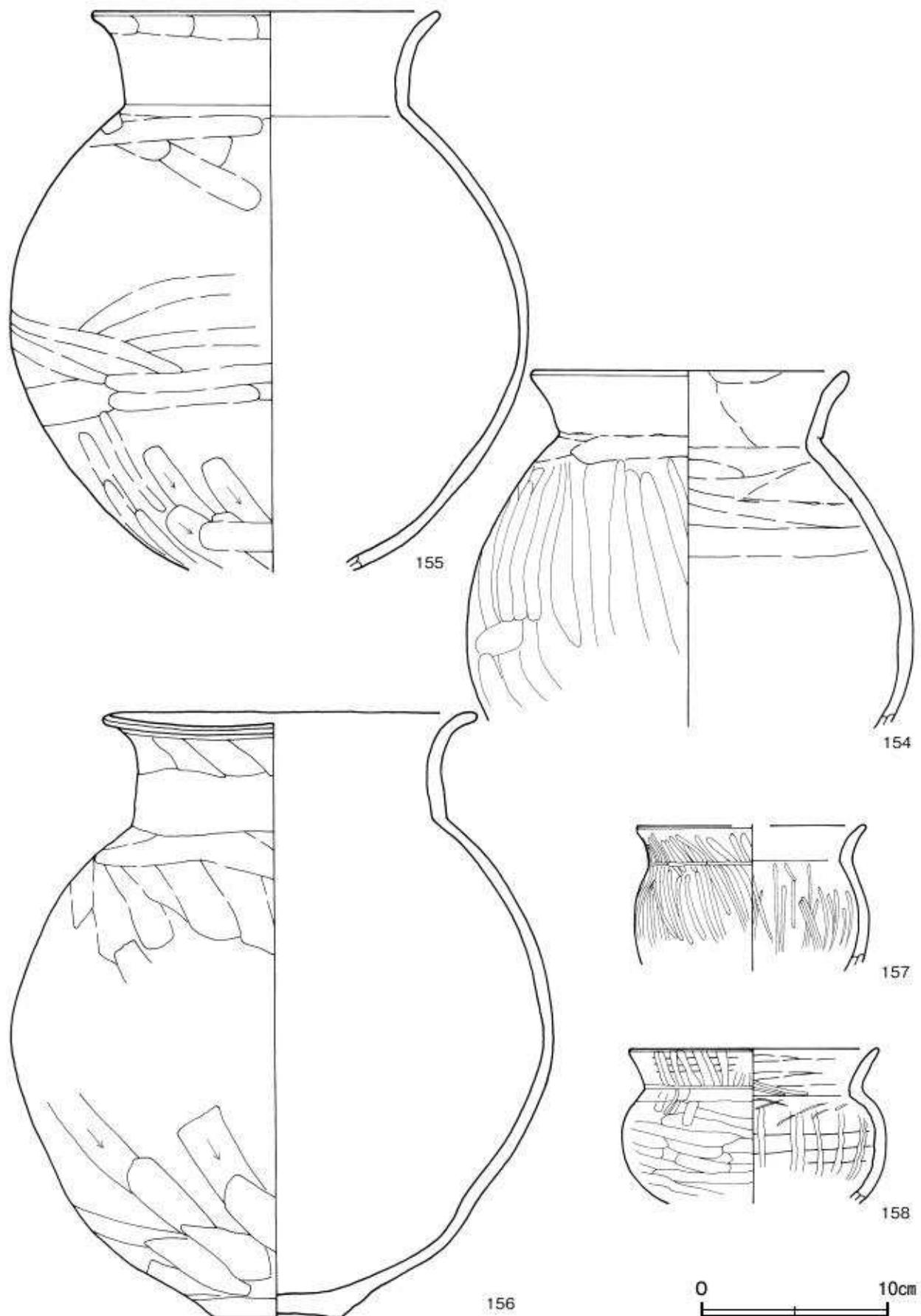
炉 北西壁寄りに位置している。長径66cm、短径53cmの楕円形で、深さ3cmの地床炉である。

炉土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量



第93図 第42号竪穴建物跡実測図



第94図 第42号竪穴建物跡出土遺物実測図

ピット 3か所。P 1～P 3は径24～48cm、深さ46～60cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から、柱痕跡と推測される。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	3 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 暗 褐 色 ロームブロック中量

貯蔵穴 南東壁際の中央部に位置している。長径89cm、短径70cmの梢円形で、深さは18cmである。壁は外傾し、底面は皿状である。

貯蔵穴土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	2 褐 色 ローム粒子多量
---------------------------------	---------------

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 細 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量	3 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量	4 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片59点（壺5、甕類52、小形甕2）、石1点が出土している。154・155・156は、北西壁寄りに、炉を開むように並び、逆位の状態で出土している。156は、ほぼ完全な形を留めており、内部は空洞のままであった。157・158は、覆土下層から割れた状態で出土しているため、埋め戻し土に含まれていたか、もしくは投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。

第42号竪穴建物跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師器	甕	16.7	(19.1)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	床面	40% PL35・36
155	土師器	甕	18.4	(30.0)	—	長石・石英・輝緑	にぶい黄褐	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面摩滅のため不明	床面	90% PL35・36
156	土師器	甕	19.8	32.6	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面摩滅のため不明 底部ヘラナデ	床面	95% PL35・36
157	土師器	小形甕	[12.2]	(7.8)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外・内面縦位のヘラ磨き	覆土下層	30% PL33
158	土師器	小形甕	13.2	(8.3)	—	長石・石英	灰黄褐	良好	口縁部外面ヘラナデ後縫合のヘラ磨き 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ後縫合のヘラ磨き	覆土下層	50% PL33

第43号竪穴建物跡（第95・96図）

位置 調査区南西部のQ11f3区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第52号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第52号竪穴建物跡に掘り込まれているため、確認できた東西軸は3.32mで、南北軸は3.08mしか確認できなかった。南北軸方向は、N-16°-Wで、方形と推測される。壁は高さ6～12cmで、外傾している。

床 平坦で、やや北寄りの中央部が踏み固められている。

ピット 2か所。P 1・P 2は径21～28cm、深さ24～42cmで、性格は不明である。

ピット土層解説（P 1）

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	2 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
------------------------	------------------------

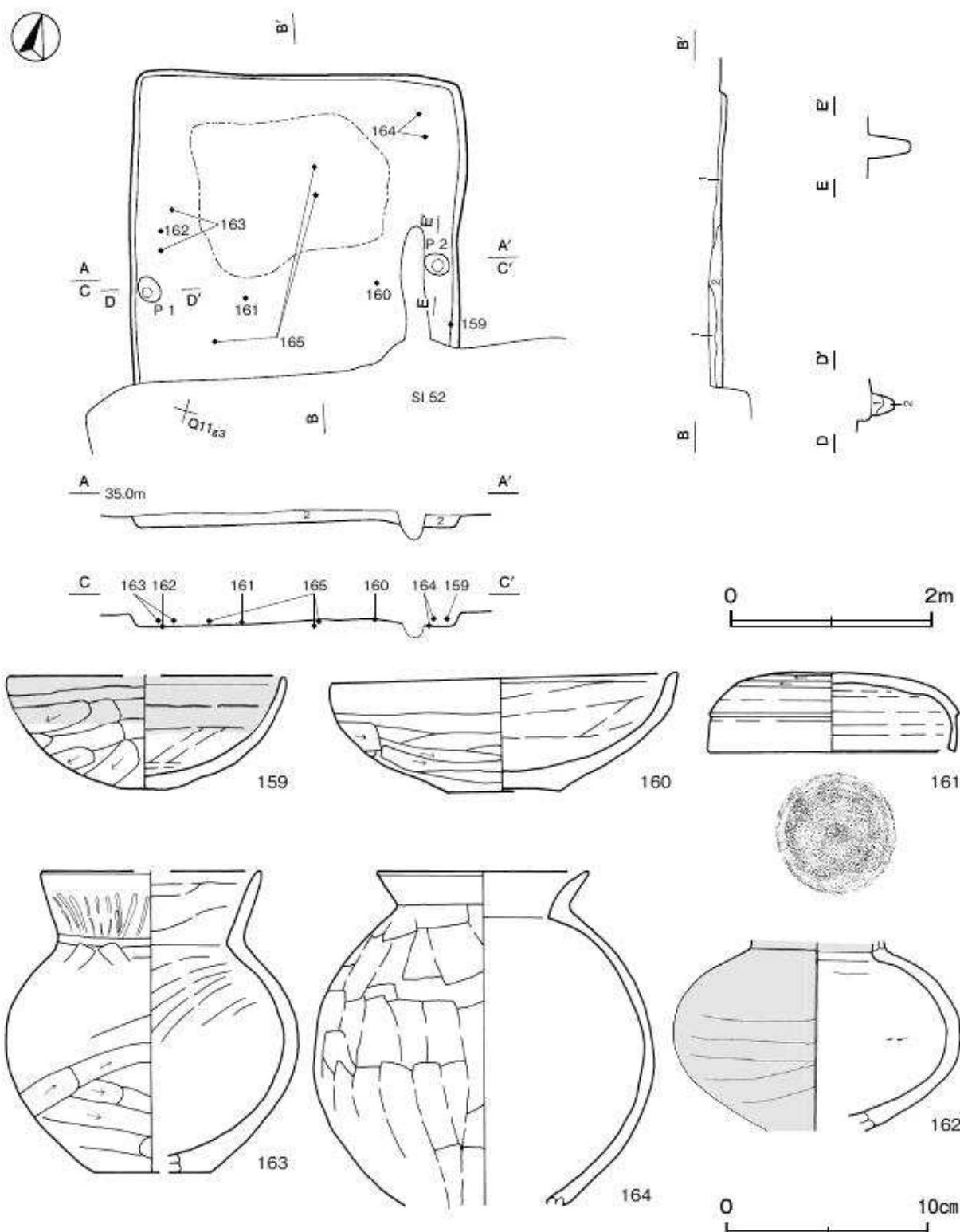
覆土 2層に分層できる。堆積が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

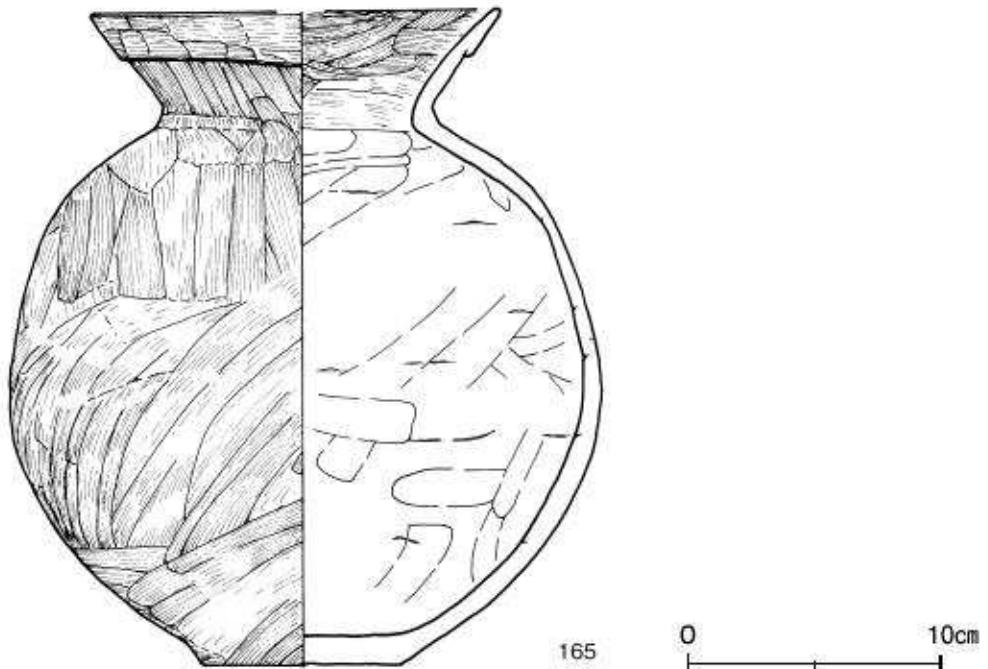
1 黒 褐 色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
-------------------------------	-----------------------------

遺物出土状況 土師器片 24 点（壺 4、罐 2、甕類 18）、須恵器片 1 点（壺蓋）が出土している。159 は東壁際、163 は西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。160 は東壁寄り、161 は中央部、162 は西壁際の床面からそれぞれ出土している。164 は北東コーナー部、165 は南部から中央部にかけての床面に破片が散った状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉と考えられる。



第 95 図 第 43 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第96図 第43号竪穴建物跡出土遺物実測図

第43号竪穴建物跡出土遺物観察表（第95・96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
159	土器	壺	[13.7]	5.6	—	長石・石英・磁隕	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	60%
160	土器	壺	17.2	5.9	5.8	長石・石英・赤色粒子・磁隕	赤	普通	外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	床面	90% PL29
161	須恵器	环盞	12.4	3.9	—	長石・石英	黄灰	良好	天井部外面目輪ヘラ削り	床面	70% 東海座 PL31
162	土器	壺	—	(9.5)	—	長石・石英・磁隕	灰黄褐	普通	外面ヘラ磨き 内面摩滅のため不明	床面	20%
163	土器	甕	[10.8]	15.5	[5.8]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面縦位のヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	40%
164	土器	甕	10.4	(16.6)	—	長石・石英・赤色粒子・磁隕	黄灰	普通	外面縦位のヘラナデ 内面摩滅のため不明	床面	60% PL33
165	土器	甕	[16.2]	26.0	7.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外 内面 体部外面ハケ目調整 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	床面	60%

第44号竪穴建物跡（第97・98図 PL17）

位置 調査区南西部のQ11g1区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びている。一辺が4.26mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁は高さ29~35cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には、幅6~12cm、深さ6~8cmの壁溝が巡っている。炭化材や焼土が床面全体から出土している。

炉 北壁寄りに位置している。第4号溝に掘り込まれているため、確認できた長径は54cm、短径は10cmである。

ピット 6か所。P1~P4は、径14~16cm、深さ54~68cmで、規模や配置から主柱穴である。P4は、

土層から柱痕跡と推測される。P 5 は径 26cm、深さ 20cm で、位置から補助柱穴と考えられる。P 6 は径 26cm、深さ 8cm で、性格は不明である。

ピット土層解説 (P 1 ~ P 4 共通)

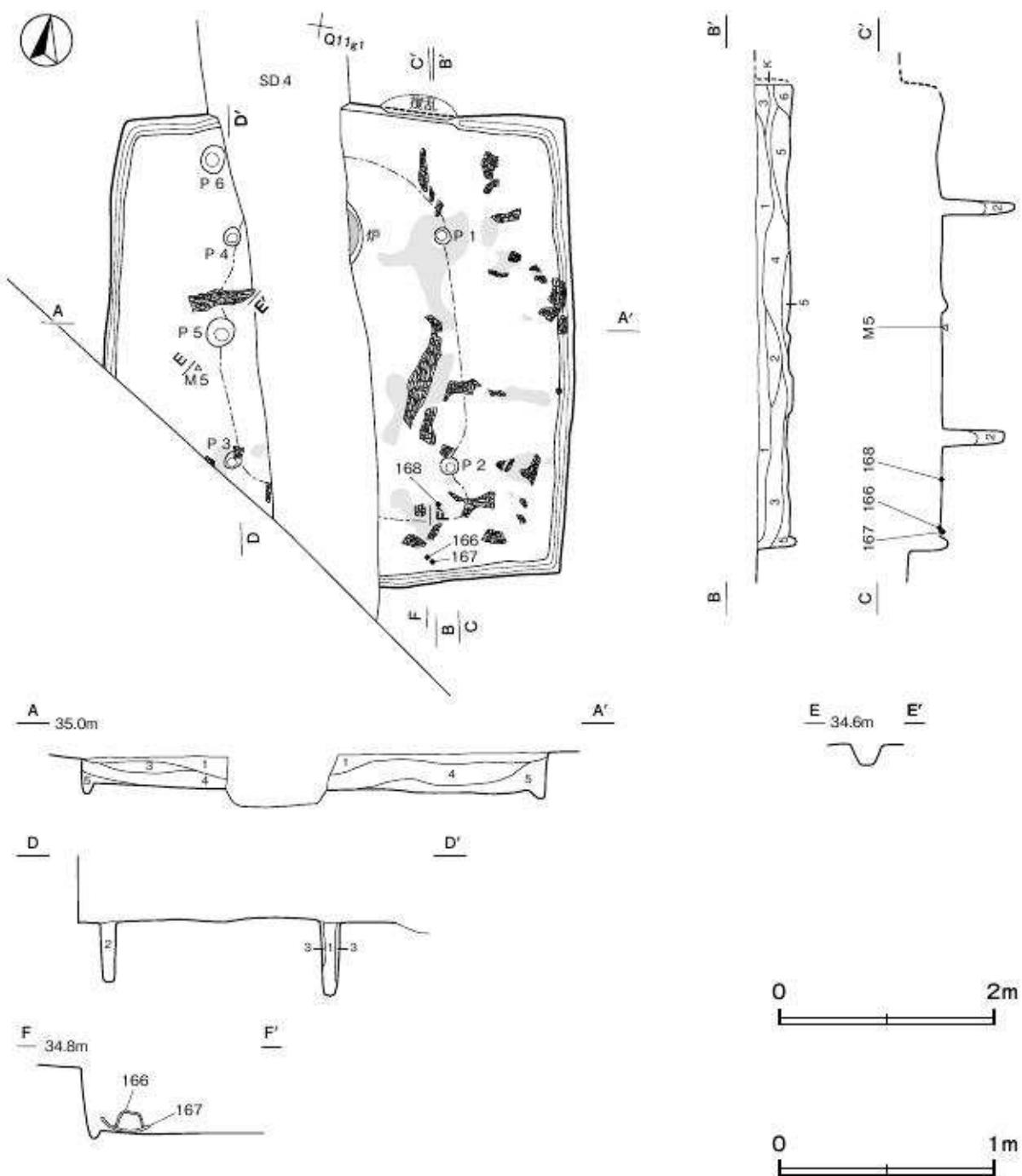
- 1 黒 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックや炭化材・焼土が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

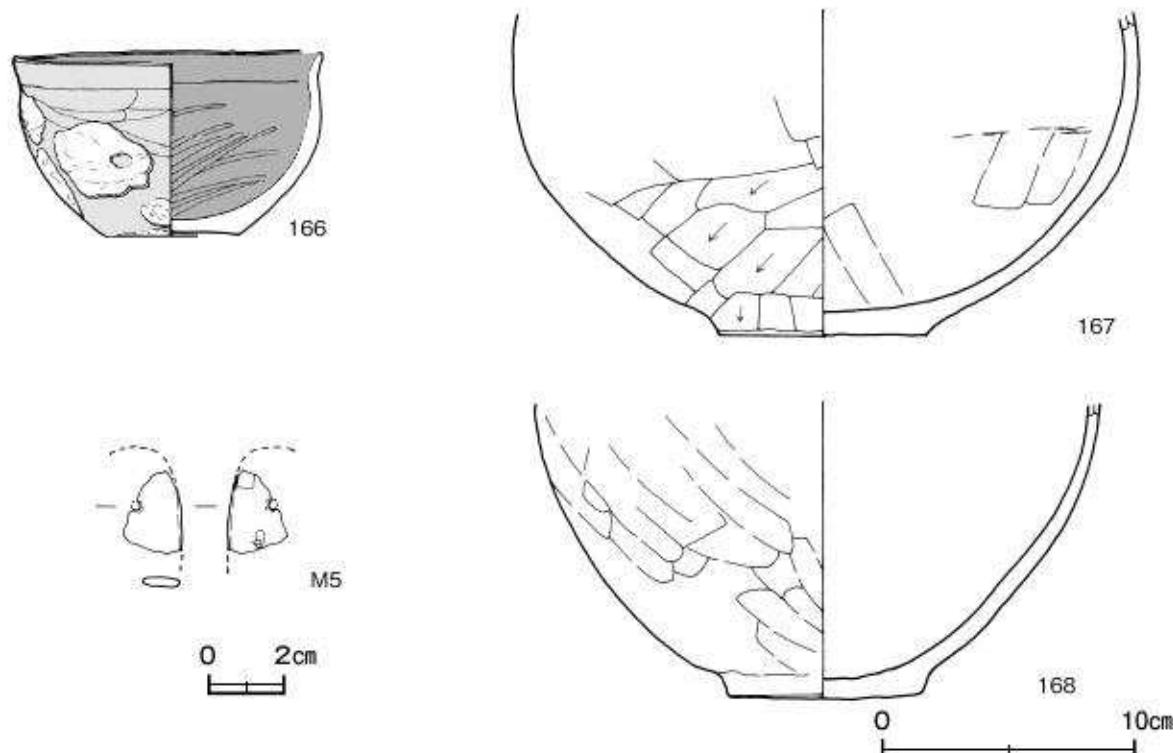
- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量 |



第 97 図 第 44 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 4 点（椀 1, 壺類 3), 鉄製品 1 点（小札カ）が出土している。166～168 は南壁際の床面から出土している。166 は、破片の 167 の上に逆位に伏せ置かれた状態で出土している。M 5 は、西部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。床面から、焼土や炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第 98 図 第 44 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 98 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	土師器	椀	12.1	7.3	5.3	長石・石英・磁鐵	にぶい黄褐	普通	外・内面ヘラ削き 底部ヘラ削り後ヘラナデ 内面赤彩後黒色処理	床面	95% PL31
167	土師器	壺	—	(12.8)	8.6	長石・石英・赤色粒子・磁鐵	明黄褐	普通	外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	床面	20%
168	土師器	壺	—	(11.7)	7.6	長石・石英・磁鐵	にぶい橙	普通	外側ヘラナデ 内面摩減のため不明 底部ヘラ削り後ヘラナデ	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	小札カ	(2.2)	(1.6)	0.22	(1.22)	鉄	孔 1 か所	床面	PL42

第 45 号竪穴建物跡（第 99・100 図 PL18）

位置 調査区南西部の Q10e0 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 4 号溝、第 380 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.96m、短軸 3.70m の方形で、南北軸方向は N - 2° - W である。壁は高さ 19 ~ 26cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 4か所。P 1～P 4は径20～30cm、深さ28～60cmで、規模や配置から主柱穴である。P 1・P 3は、土層から柱痕跡と推測される。

ピット土層解説 (P 1・3・4共通)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

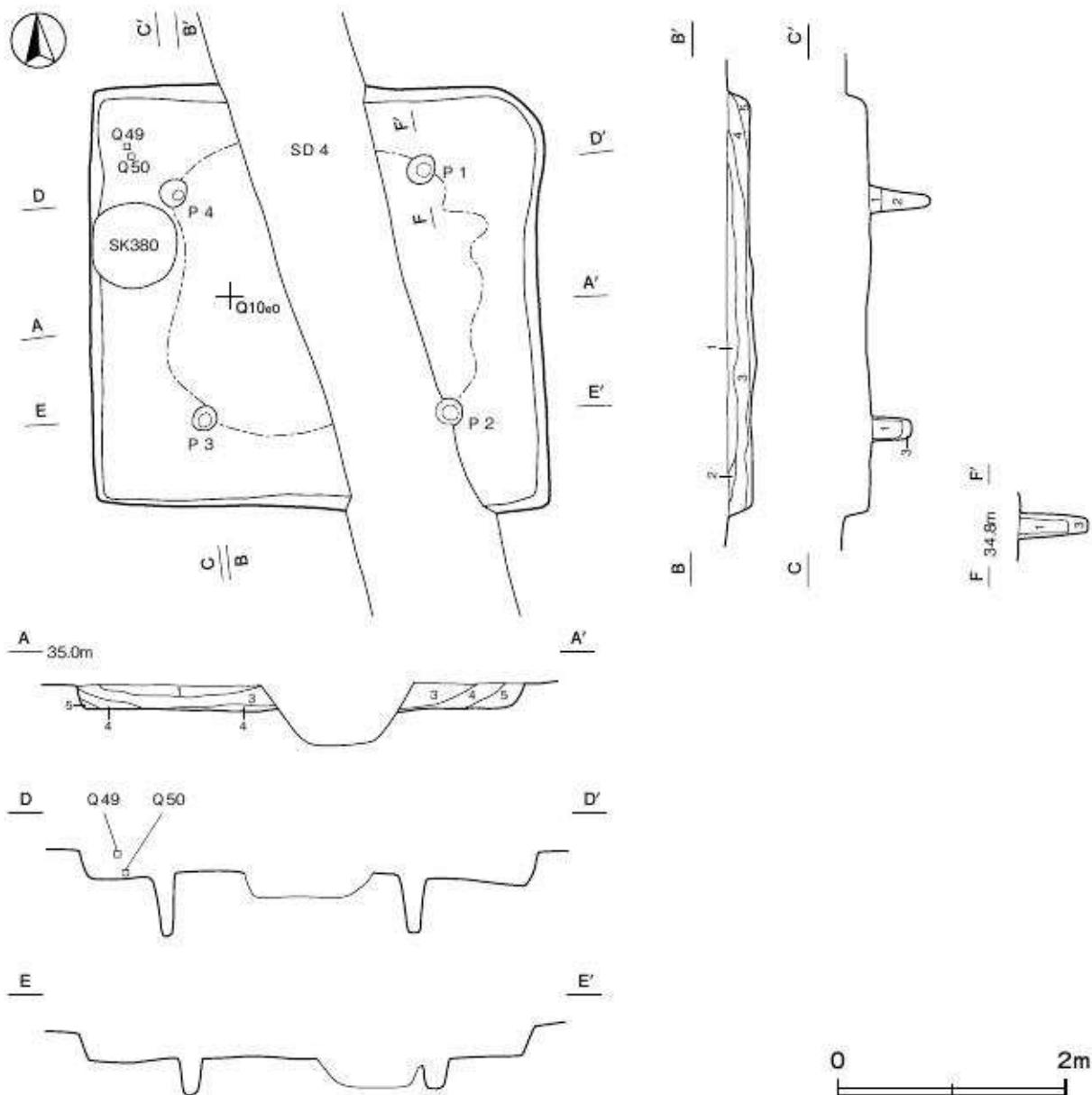
覆土 5層に分層できる。第1層は、自然堆積である。第2～5層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

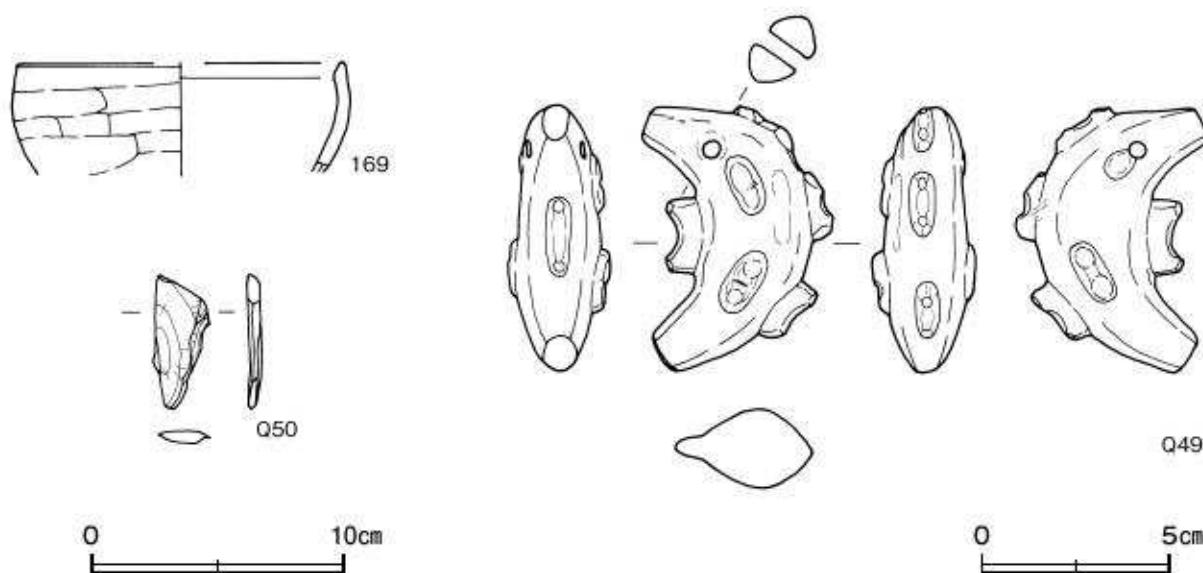
- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 | 4 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 濃暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片9点(环1、甕類8)、石器2点(軽石)、石製品1点(子持勾玉)、剥片1点が出土している。Q49は北西コーナー部の覆土中層から、Q50は覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。



第99図 第45号竪穴建物跡実測図



第100図 第45号竪穴建物跡出土遺物実測図

第45号竪穴建物跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴は	出土位置	備考
169	土師器	环	[13.0]	(4.4)	—	長石・石英	明褐	善透	外面横位のヘラナデ 内面摩滅のため不明	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q49	子持勾玉	7.0	5.0	2.7	82.64	滑石	小勾玉7 一方向からの穿孔 孔径0.45cm	覆土中層	PL40
Q50	剥片	5.3	2.4	0.5	6.93	滑石	素材剥片 石製模造品の未成品か	覆土下層	PL38

第46号竪穴建物跡（第101・102図 PL18）

位置 調査区西部のP11j1区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.06m、短軸4.73mの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁は高さ54~62cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅7~15cm、深さ4~7cmの壁溝が全周している。間仕切り溝は2条あり、長さ105~126cm、深さ12~14cmで、壁際からそれぞれP1、P4に向かって延びている。

炉 2か所。炉1はP1・P4の間に、炉2は北壁寄りに位置している。炉1は長径72cm、短径58cmの梢円形で、深さ7cmの地床炉である。炉2は長径56cm、短径49cmの梢円形で、深さ7cmの地床炉である。

炉土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量

ピット 6か所。P1~P4は径28~34cm、深さ56~69cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から柱痕跡と推測される。P5は、径31cm、深さ10cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は径41cm、深さ10cmで、性格は不明である。

ピット土層解説（全ピット共通）

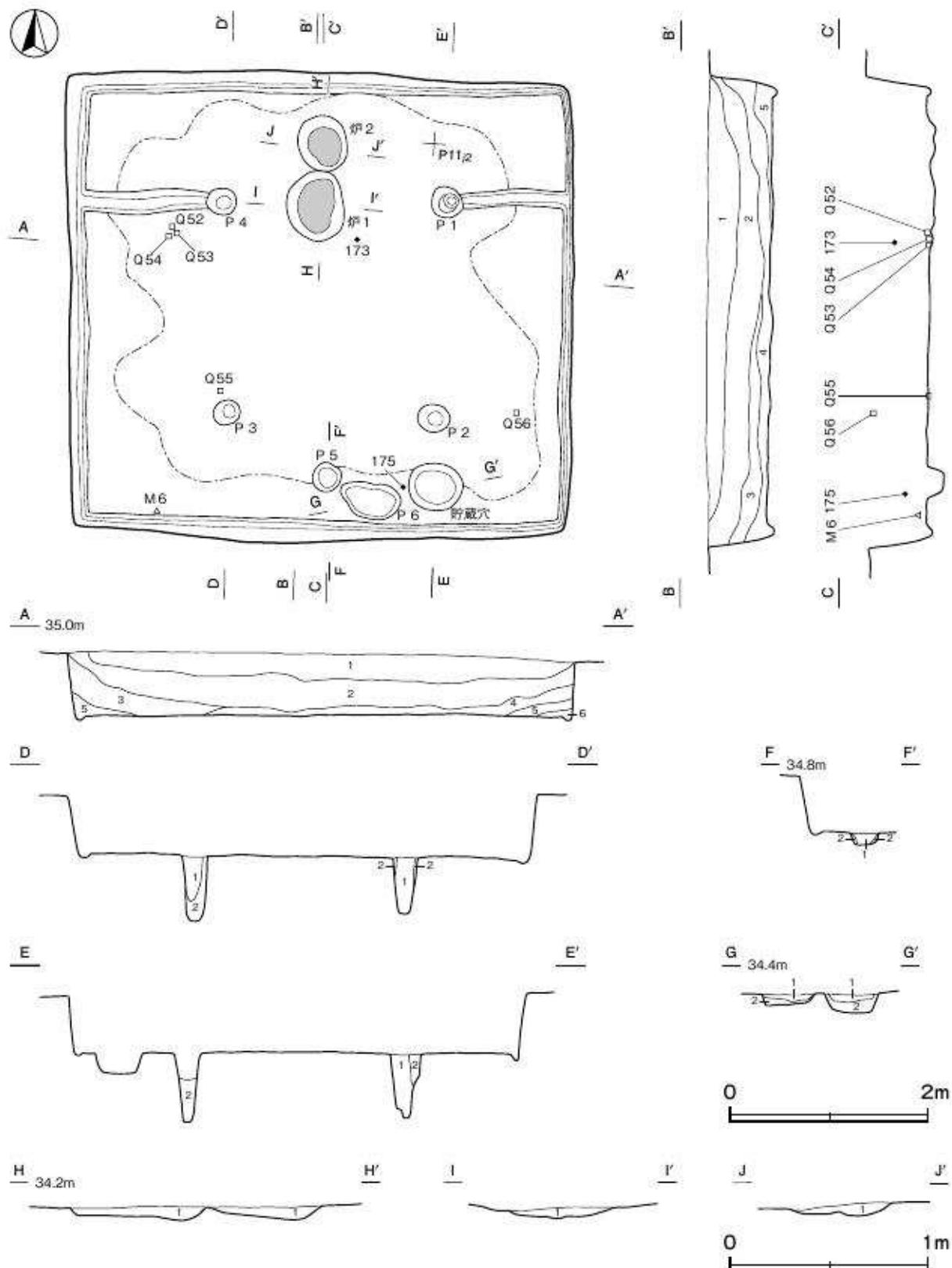
1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

貯蔵穴 南壁際に位置している。長径 55cm、短径 48cm の梢円形で、深さは 19cm である。壁は外傾しており、底面は平坦である。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量



第 101 図 第 46 号竪穴建物跡実測図

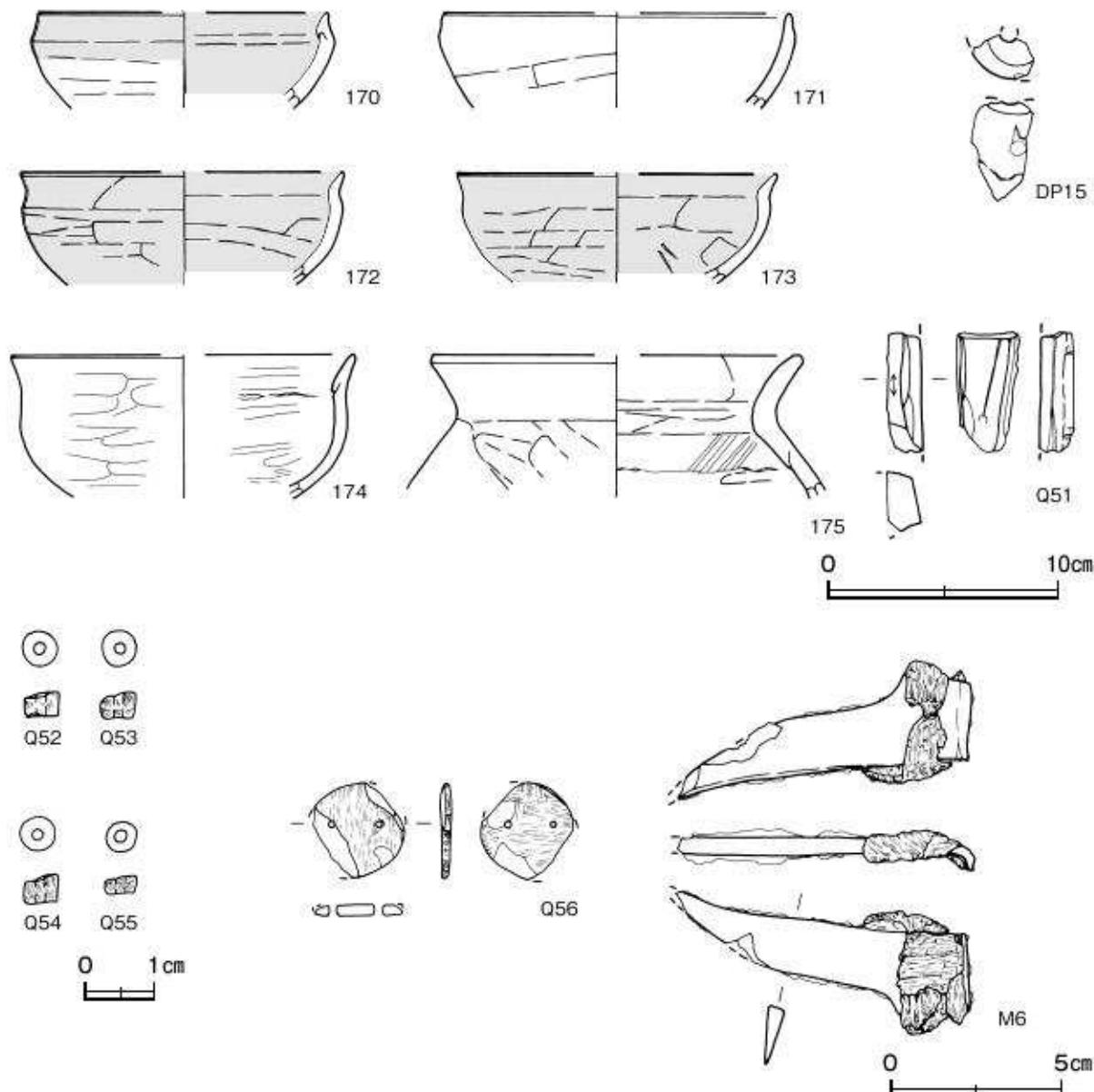
覆土 6層に分層できる。第1層は自然堆積である。第2～6層は、ロームブロックや焼土、炭化材が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量	4 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量	5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化材少量	6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 356 点(坏 99, 高坏 1, 壺類 256), 須恵器片 1 点(壺), 土製品 1 点(土玉), 石器 1 点(砥石), 石製品 5 点(臼玉 4, 有孔円板 1), 鉄製品 1 点(鎌)のほか、縄文土器片 18 点(深鉢)が、西側の覆土上層から下層にかけて散乱した状態で出土している。173 は中央部の覆土中層から、175 は南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。Q52～Q54 は、P 4 南西部の床面から、まとまって出土している。Q55 は、P 3 北側の床面から出土している。M 6 は、南西コーナー部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末葉～6 世紀初頭と考えられる。



第 102 図 第 46 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第46号竪穴建物跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
170	土師器	壺	[12.4]	(4.2)	-	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面横粒のヘラナデ	覆土中	5%
171	土師器	壺	[15.0]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	赤	普通	外面ヘラナデ 内面摩滅のため不明	覆土中	10%
172	土師器	壺	[14.0]	(4.9)	-	長石	にぶい赤褐	普通	外・内面横粒のヘラナデ	覆土中	5%
173	土師器	壺	[13.9]	(4.7)	-	長石・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	外・内面横粒のヘラナデ	覆土中層	5%
174	土師器	壺	[15.0]	(6.2)	-	赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面横粒のヘラ磨き	覆土中	5%
175	土師器	甕	[16.0]	(6.2)	-	長石	橙	普通	外・内面ヘラナデ 内面一部ヘラ磨き	覆土下層	5%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP15	土玉	[3.8]	(4.3)	[0.7]	(14.33)	長石・石英・赤色粒子	明褐	一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q51	砾石	(5.2)	(1.5)	(2.8)	(28.61)	砂岩	砥面2面 裏面に振り切り痕	覆土中	
Q52	臼玉	0.53	0.53	0.39	0.18	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.15cm	床面	PL39
Q53	臼玉	0.52	0.52	0.4	0.18	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.15cm	床面	PL39
Q54	臼玉	0.52	0.52	0.4	0.21	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.15cm	床面	PL39
Q55	臼玉	0.46	0.46	0.26	0.08	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 中央に稜を有する 孔径0.18cm	床面	PL39
Q56	有孔円板	28	(2.7)	0.3	(3.44)	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径0.20cm	覆土上層	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M-6	錠	(8.7)	4.2	0.5	(18.7)	鉄	基部折り返し 本納部残存	床面	PL41

第47号竪穴建物跡（第103～106図 PL18・19）

位置 調査区東部のO12i5区、標高35.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第341・343号土坑に掘り込まれ、第356号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.02m、短軸6.94mの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。壁は高さ25～43cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西壁と北東壁の一部の壁下には、幅15～18cm、深さ5～8cmの壁溝が巡っている。炭化材や焼土が、壁際の床面から出土している。

炉 北西壁寄りに位置している。長径79cm、短径67cmの楕円形で、深さ6cmの地床炉である。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

ピット 9か所。P1～P4は径27～46cm、深さ66～82cmで、規模や配置から主柱穴である。P2・P4は、土層から柱痕跡と推測される。P5は、径25cm、深さ42cmで、位置から出入口施設に伴うピットである。

P6～P9は、径21～42cm、深さ15～60cmで、位置から補助柱穴と考えられる。

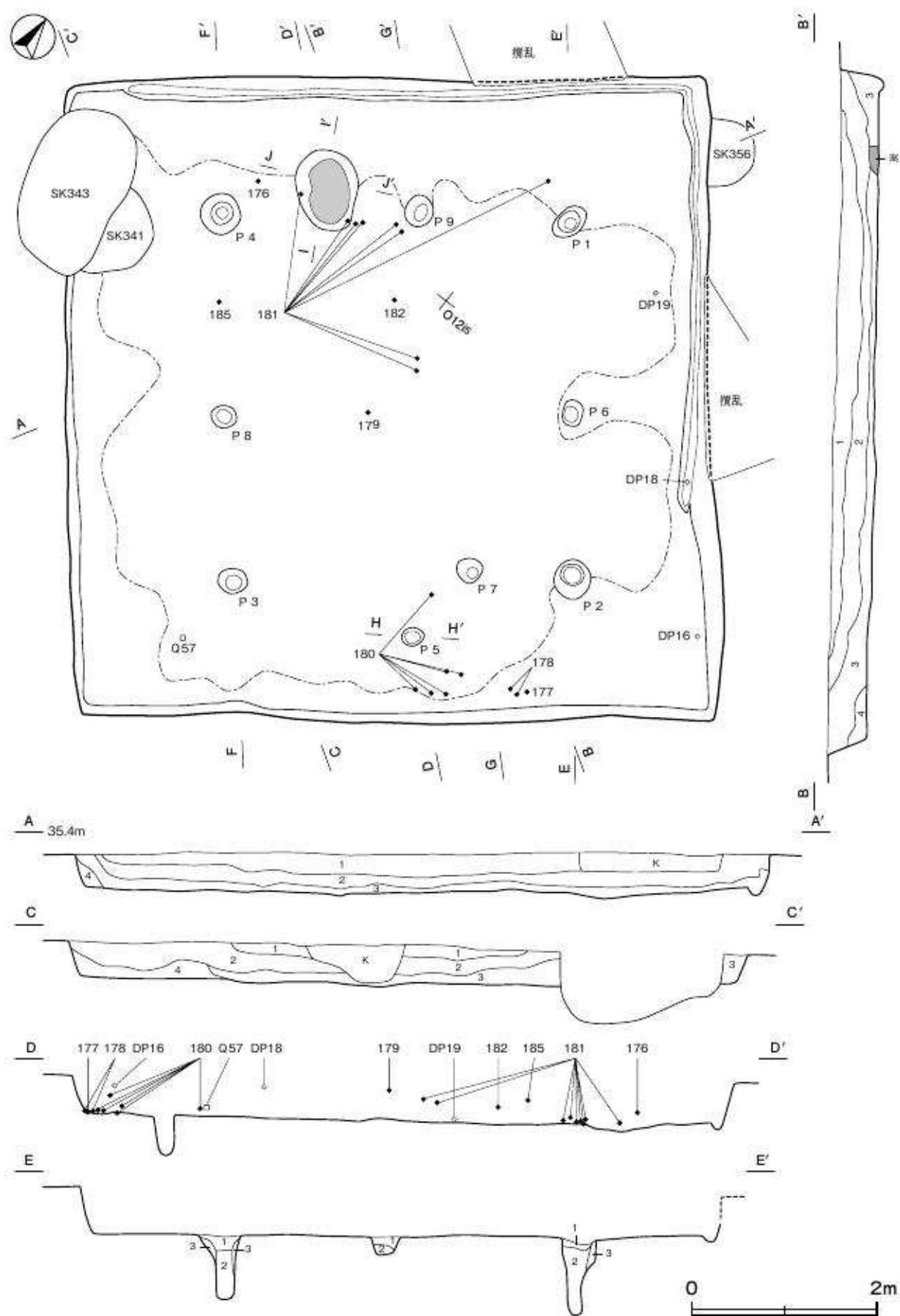
ピット土層解説（全ピット共通）

1 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 3 褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

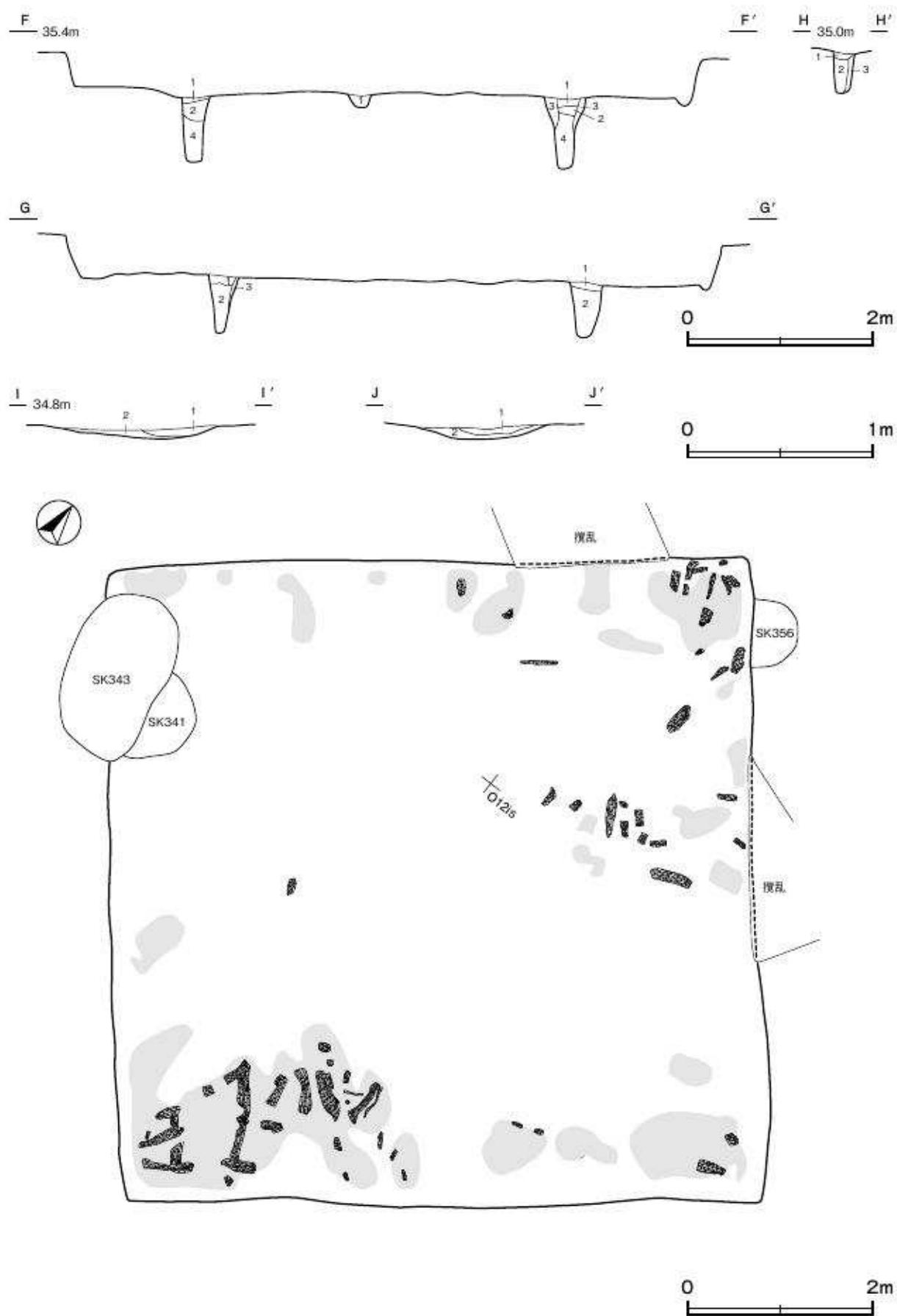
覆土 4層に分層できる。炭化材や焼土、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量



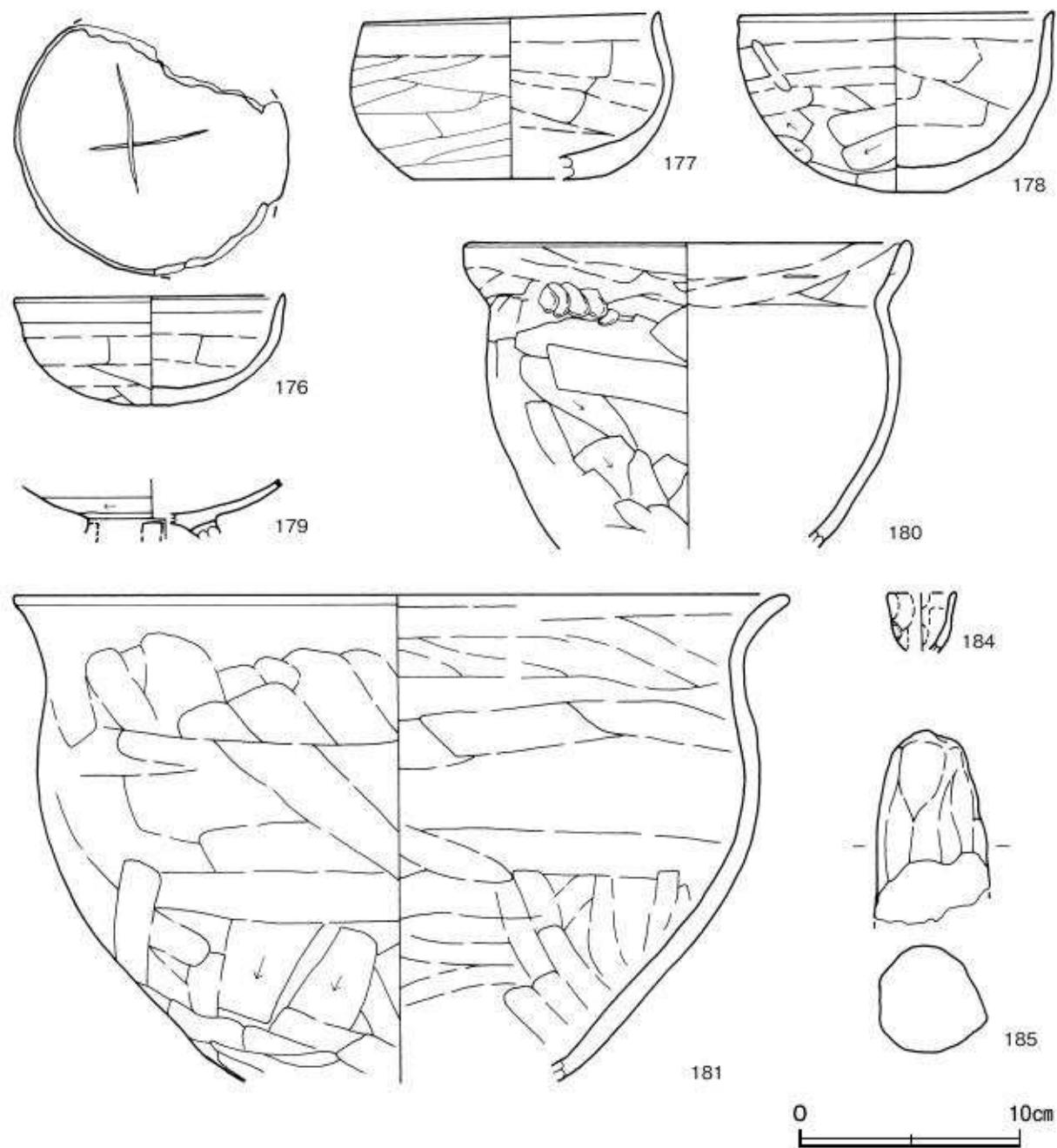
第103図 第47号竪穴建物跡実測図(1)



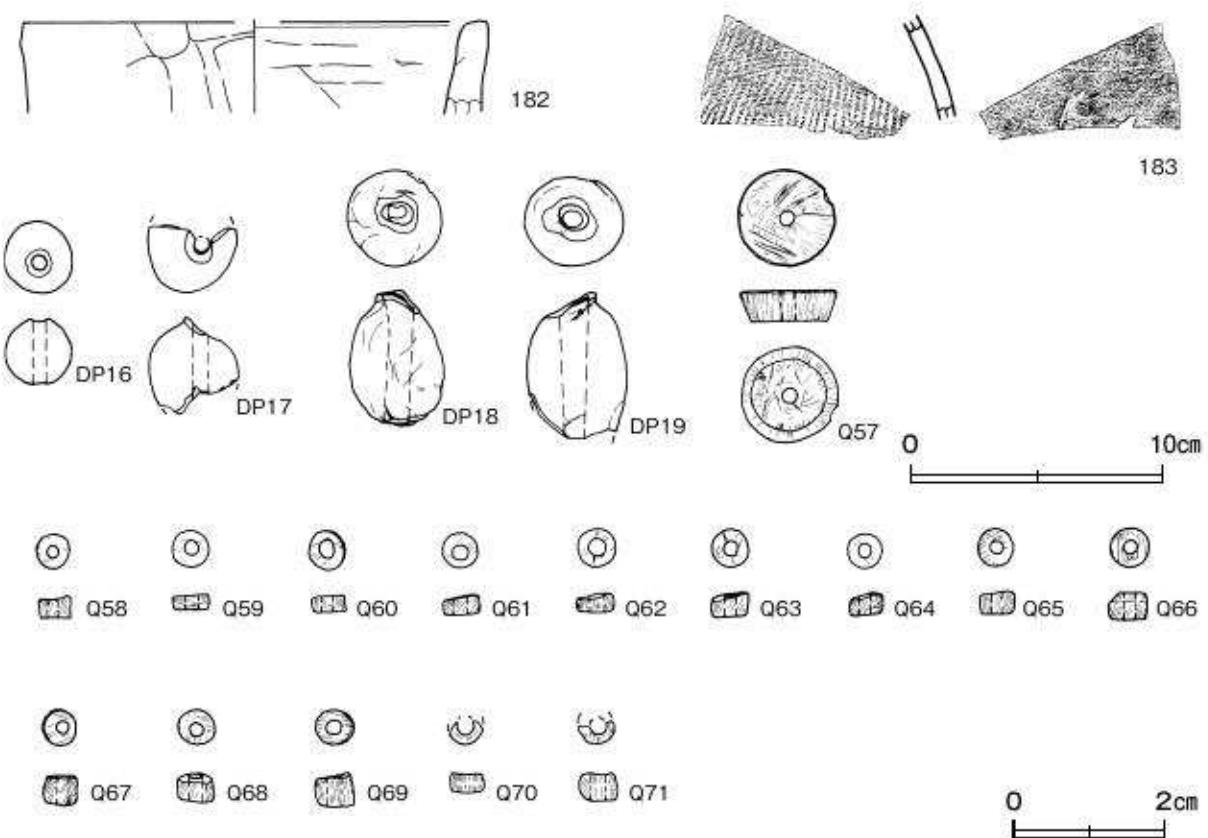
第104図 第47号竪穴建物跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片 837 点（壺 96、碗 2、高壺 4、壙 3、鉢 2、甕類 727、手捏土器 2、炉器台 1）、須恵器片 2 点（高壺、甕）、土製品 9 点（土玉 4、不明 5）、石器 1 点（紡錘車）、石製品 14 点（臼玉）、自然遺物（炭化米）のほか、瓦 1 点（平瓦）、石 4 点が、北側の覆土上層を中心に散乱した状態で出土している。176 は、北西壁寄りの覆土中層から、179・182 は中央部の覆土中層から、185 は南西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。177・178 は南東壁際の床面から正位の状態で、並んで出土している。180・181 は、覆土中層から床面に掛けて散った状態で出土している。埋め戻し土に含まれていたと考えられる。Q57 は、南コーナー部の覆土下層から逆位の状態で出土している。DP16・DP18 は北東壁際の覆土上層から、DP19 は北東壁際の床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末葉と考えられる。床面から、焼土や炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第 105 図 第 47 号竪穴建物跡遺物実測図(1)



第 106 図 第 47 号堅穴建物跡遺物実測図(2)

第 47 号堅穴建物跡出土遺物観察表（第 105・106 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
176	土師器	塚	12.4	5.0	-	長石・石英・赤色粒子・細繊	明赤褐	普通	外・内面ヘラナデ 内面に十字状の線刻	覆土中層	70% PL29
177	土師器	楕	13.6	7.6	-	長石・石英・細繊	明黄褐	普通	外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	50% PL31
178	土師器	楕	14.2	8.1	-	長石・石英・赤色粒子・細繊	明黄褐	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	70% PL31
179	須恵器	高环	-	(27)	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黄	普通	外面回転ヘラ削り 四方向に方形透かし孔	覆土中層	10% 東海窯
180	土師器	鉢	20.0	(13.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄帯	普通	口縁部外・内面側面のヘラナデ 体部外へラ削り一部指頭痕 内面摩滅のため不明	覆土中層～床面	50% PL34
181	土師器	鉢	[35.2]	(22.3)	-	長石・石英・墨母	橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土中層～床面	50% PL34
182	土師器	甕	[18.4]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面ヘラナデ	覆土中層	5%
183	須恵器	甕	-	(4.1)	-	長石・石英	暗灰黄	良好	外面縁部の平行叩き後カキ目 内面同心円状の当て具痕後横位のナデ	覆土中	5% 東海窯
184	土師器	手捏土器	[3.0]	(2.7)	-	砂粒	にぶい橙	普通	指ナデ	覆土中	40%
185	土師器	切端台	-	(8.8)	-	長石・石英・細繊	にぶい褐	普通	幅5.3cm 厚さ4.9cm 指ナデ	覆土中層	

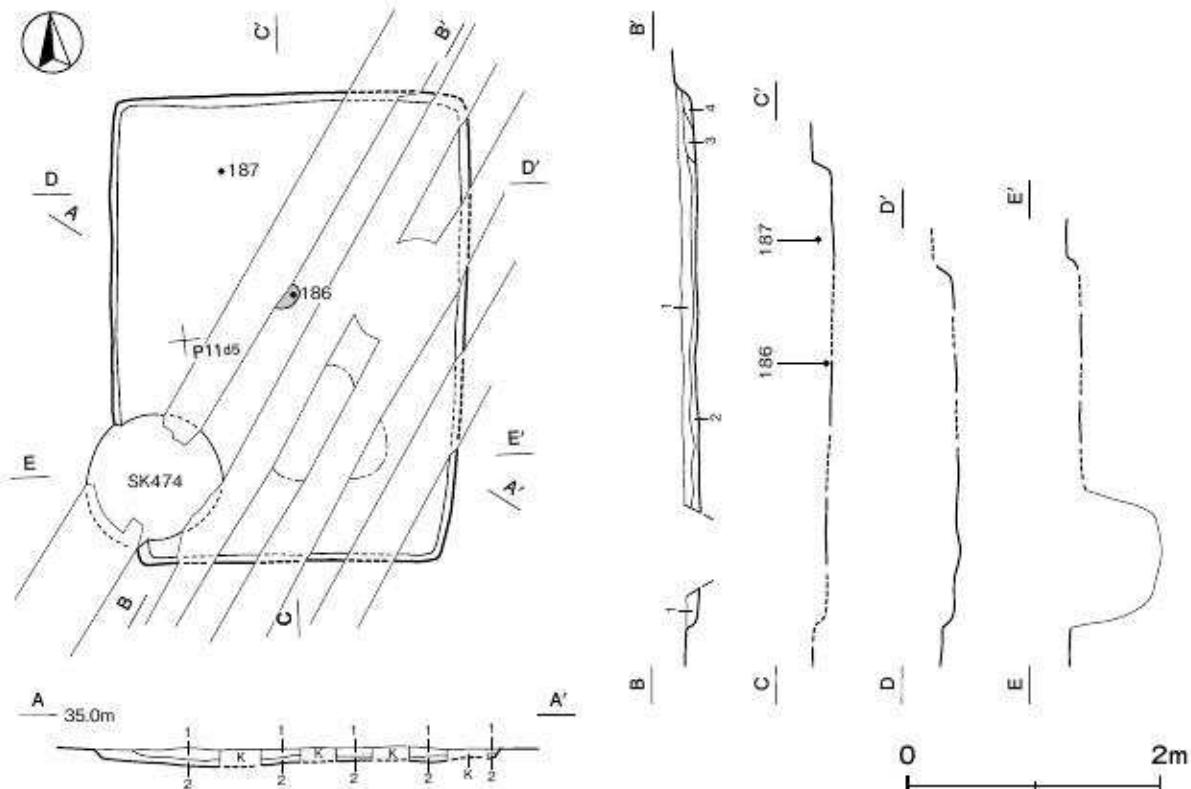
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP16	土玉	27	2.6	0.6	18.21	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	明赤褐	全面磨き 一方向からの穿孔	覆土上層	
DP17	土玉	35	(3.8)	0.6	(23.92)	長石・石英・赤色粒子・細繊	褐	一方向からの穿孔	覆土中	
DP18	土玉	38	5.3	1.2	(57.55)	長石・石英・細繊	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL37
DP19	土玉	39	(5.8)	1.1	(66.20)	長石・石英・細繊	にぶい黄褐	全面磨き 一方向からの穿孔	床面	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q57	鎌鋸車	3.9	3.8	1.2	2849	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.60cm	覆土下層	PL38
Q58	臼玉	0.41	0.41	0.32	0.08	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.17cm	覆土中	PL39
Q59	臼玉	0.49	0.49	0.18	0.06	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.19cm	覆土中	PL39
Q60	臼玉	0.51	0.51	0.21	0.09	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中	PL39
Q61	臼玉	0.50	0.50	0.23	0.09	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中	PL39
Q62	臼玉	0.50	0.50	0.26	0.08	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中	PL39
Q63	臼玉	0.51	0.51	0.31	0.11	滑石	全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.18cm	覆土中	PL39
Q64	臼玉	0.46	0.46	0.29	0.08	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.18cm	覆土中	PL39
Q65	臼玉	0.47	0.47	0.29	0.12	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.15cm	覆土中	PL39
Q66	臼玉	0.52	0.52	0.34	0.14	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.18cm	覆土中	PL39
Q67	臼玉	0.45	0.45	0.40	0.12	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.14cm 被熱により白色化	覆土中	被熱 PL39
Q68	臼玉	0.50	0.50	0.45	0.15	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.15 - 0.20cm	覆土中	PL39
Q69	臼玉	0.50	0.50	0.50	0.16	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中	PL39
Q70	臼玉	0.45	0.45	0.30	(0.05)	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中	50% PL39
Q71	臼玉	0.50	0.50	0.40	(0.07)	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.20cm	覆土中	50% PL39

第 49 号竪穴建物跡（第 107・108 図）

位置 調査区中央部の P11c5 区、標高 34.5 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 474 号土坑に掘り込まれている。



第 107 図 第 49 号竪穴建物跡実測図

規模と形状 大半が搅乱で壊されている。長軸 3.69m、短軸 2.80m の長方形で、主軸方向は N - 6° - E である。

壁は高さ 9 ~ 13cm で、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、南側の一部が踏み固められている。

炉 ほぼ中央部に位置している。搅乱で壊されているが、残存長径 22cm、短径 10cm である。

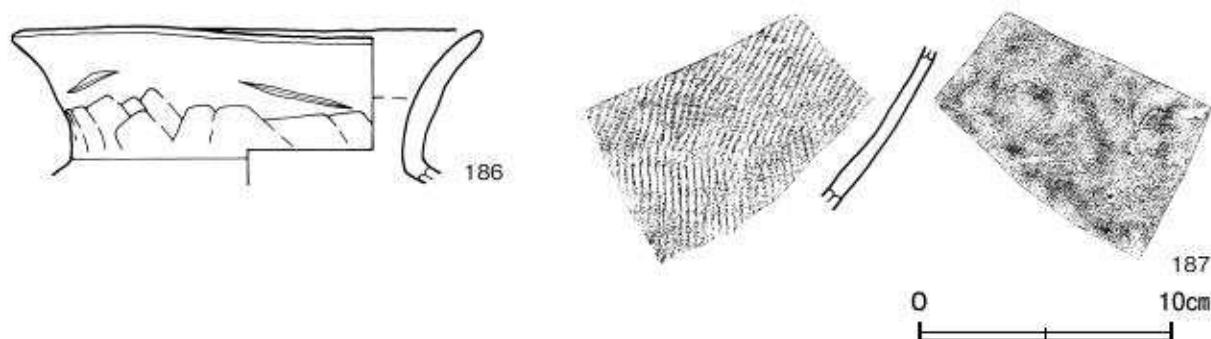
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックや焼土、炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 暗 色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	3 暗 暗 色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量
2 暗 暗 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	4 黒 暗 色 ローム粒子・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 11 点（甕類）、須恵器片 1 点（甕）、鉄製品 1 点（不明）が出土している。186 は、炉の直上から出土している。187 は、北側の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉～末葉と考えられる。



第 108 図 第 49 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 49 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 108 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
186	土師器	甕	18.4	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にふい黄橙	普通	外面部位のヘラナデ 線刻 内面横位のヘラナデ	炉直上	10%
187	須恵器	甕	-	(7.5)	-	長石	灰	普通	外面部位の平行押き模方目 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	5% 東海窯

第 50 号竪穴建物跡（第 109 ~ 111 図）

位置 調査区東部の O12d6 区、標高 35.0 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 248・280・281 号土坑に掘り込まれている。

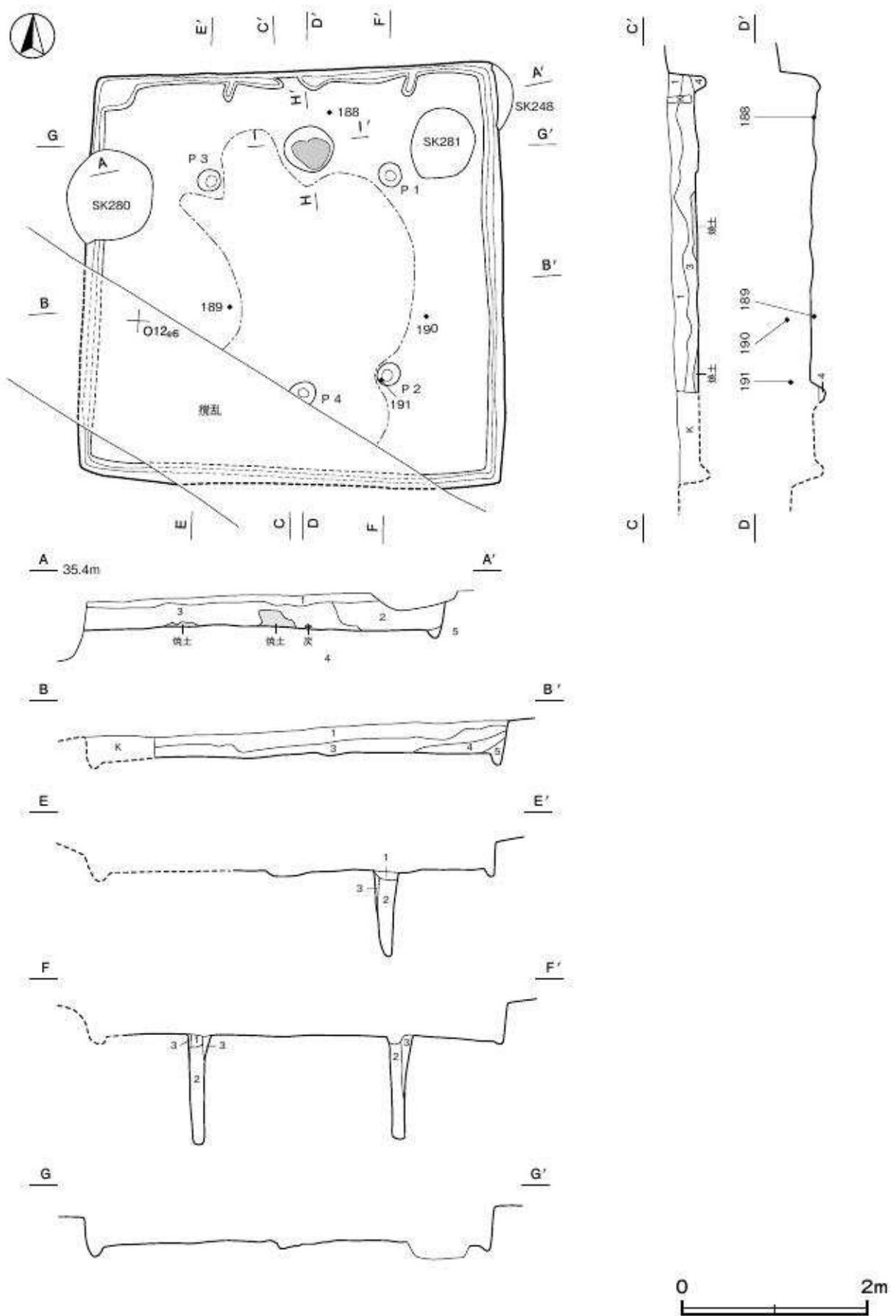
規模と形状 南側が搅乱で壊されている。一辺が 4.38m ほどの方形で、主軸方向は N - 3° - W である。壁は高さ 20 ~ 42cm で、直立している。

床 やや凹凸で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には、幅 8 ~ 36cm、深さ 8 ~ 10cm の壁溝が巡っている。炭化材や焼土が床面から出土している。

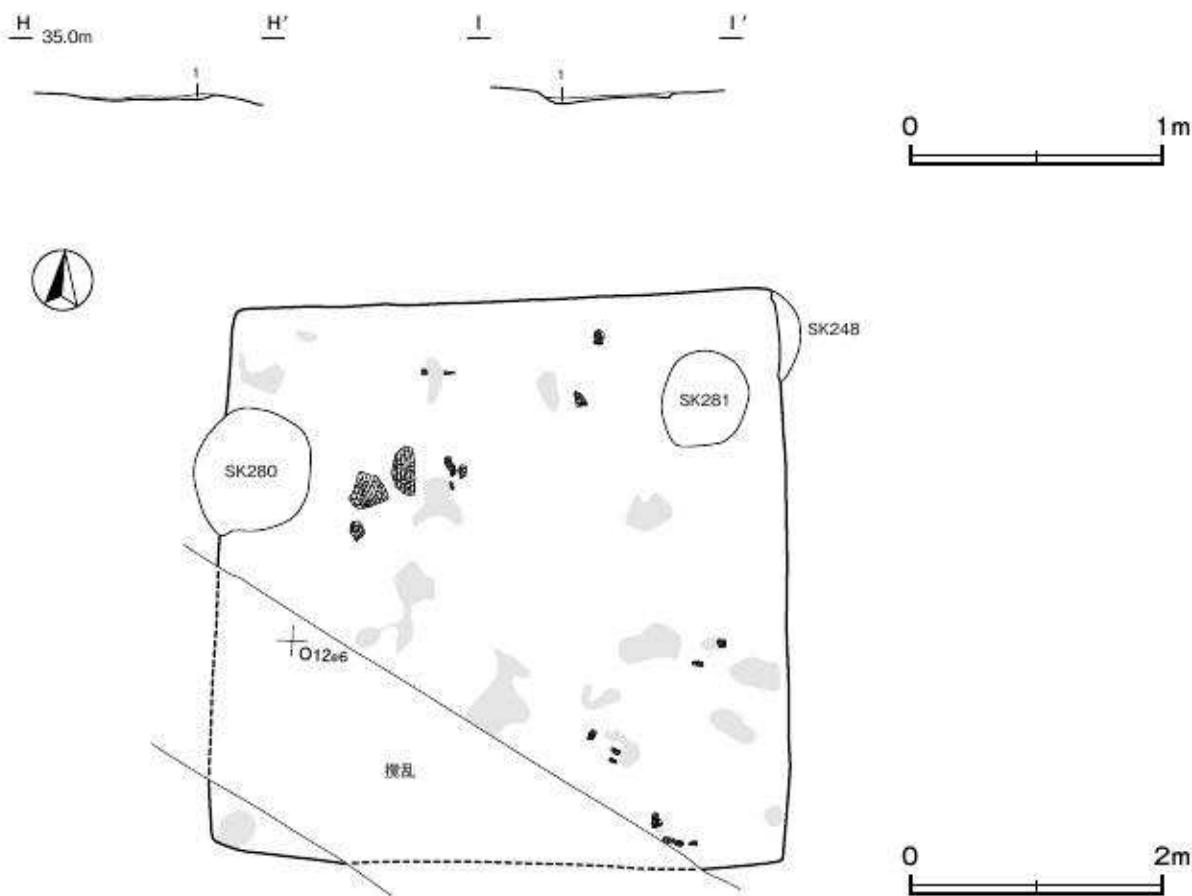
炉 北壁寄りに位置している。長径 54cm、短径 50cm の円形で、深さ 6 cm の地床炉である。

炉土層解説

1 暗 暗 色 焼土粒子少量、ローム粒子微量



第109図 第50号竪穴建物跡実測図(1)



第110図 第50号竪穴建物跡実測図(2)

ピット 4か所。P 1～P 3は径24～26cm、深さ86～120cmで、規模や配置から主柱穴である。土層から柱痕跡と推測される。P 4は、径26cm、深さ18cmで、位置から出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説（全ピット共通）

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	3 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量

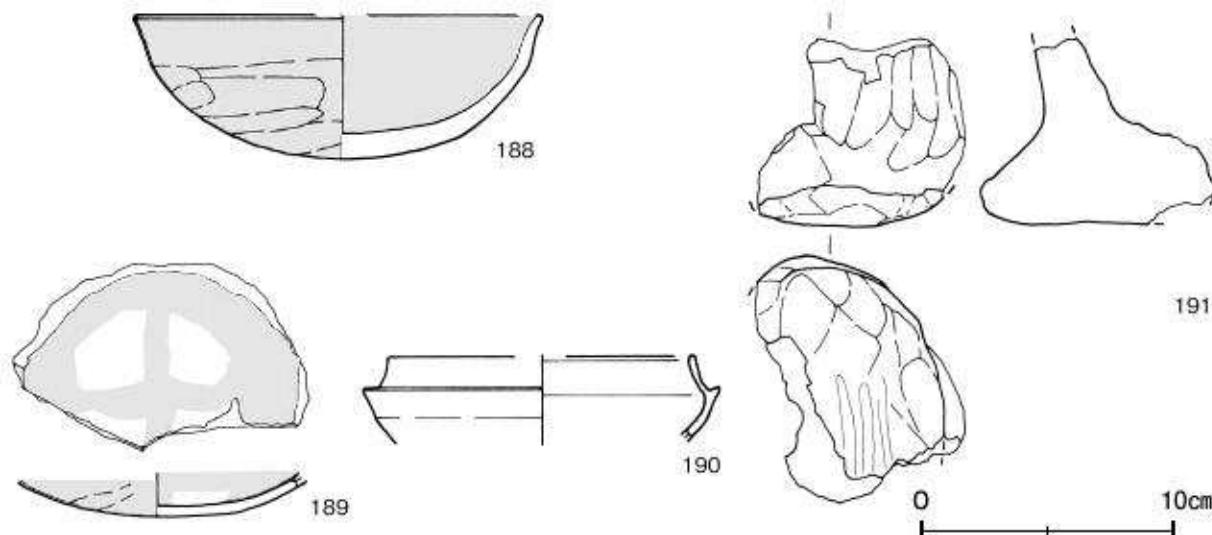
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや焼土、炭化材が多く含まれていること、不規則な堆積状況であることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化材微量	5 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片18点（壺4、甕類13、炉器台1）、須恵器片1点（壺身）、自然遺物（炭化種子）が出土している。188は北壁際の床面、189は中央部の床面から、それぞれ出土している。190・191は、東壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉～末葉と考えられる。床面から焼土や炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第111図 第50号竪穴建物跡出土遺物実測図

第50号竪穴建物跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
188	土師器	壺	[16.1]	5.7	—	長石	明赤褐色	普通	外面横位のヘラナデ	床面	50% PL29
189	土師器	壺	—	(1.7)	6.7	長石	にぶい赤褐色	普通	外面横位のヘラナデ 内面十字状の赤彩	床面	30% PL29
190	須恵器	壺身	[12.2]	(3.4)	—	長石・黒色粒子	黄灰	良好	外・内面クロコナデ	覆土上層	5% 東窓室
191	土師器	炉蓋台	—	(7.4)	—	長石・細繊維	黒褐色	普通	幅(8.3)cm 厚さ(9.4)cm ヘラナデ後ヘラ磨き	覆土上層	

第51号竪穴建物跡（第112～114図 PL19・20）

位置 調査区中央部のP11a5区、標高34.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第308・309号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西側の一部が搅乱で壊されている。長軸4.07m、短軸3.86mの方形で、主軸方向はN-94°-Eである。壁は高さ22～35cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。焚口から煙道部まで210cmで、燃焼部幅は40cmである。火床部は、床面から深さ10cm掘り込み、第13・14層を埋土し、袖部は第9～12層を積み上げて構築されている。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、途中から搅乱を受けているが、確認できた面で壁外へ110cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。内部からは、土器が2点逆位に重ねられた状態で出土している。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 灰褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	10 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	11 にぶい褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック少量、炭化物微量	12 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量	13 赤褐色	焼土粒子多量
6 極暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量	14 灰褐色	ロームブロック少量
7 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量		
8 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量		

ピット 6か所。P 1～P 4は、径16～46cm、深さ68～76cmで、規模や配置から主柱穴である。P 1・P 3は、土層から柱痕跡と推測される。P 5は、径28cm、深さ20cmで、位置から出入口施設に伴うピットである。P 6は径20cm、深さ24cmで、規模や配置から補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説（全ピット共通）

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径76cm、短径68cmの梢円形で、深さ38cmである。壁は外傾し、底面は平坦である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子多量、ローム粒子微量 | |

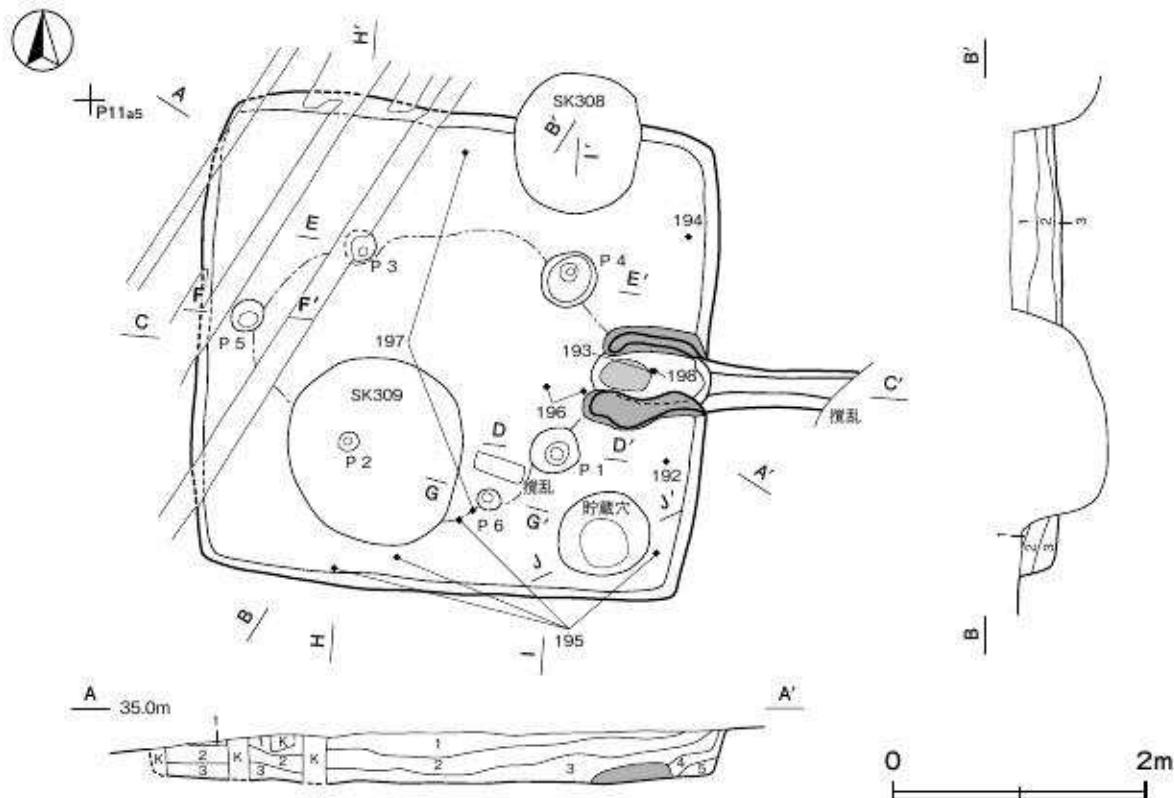
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子、焼土が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

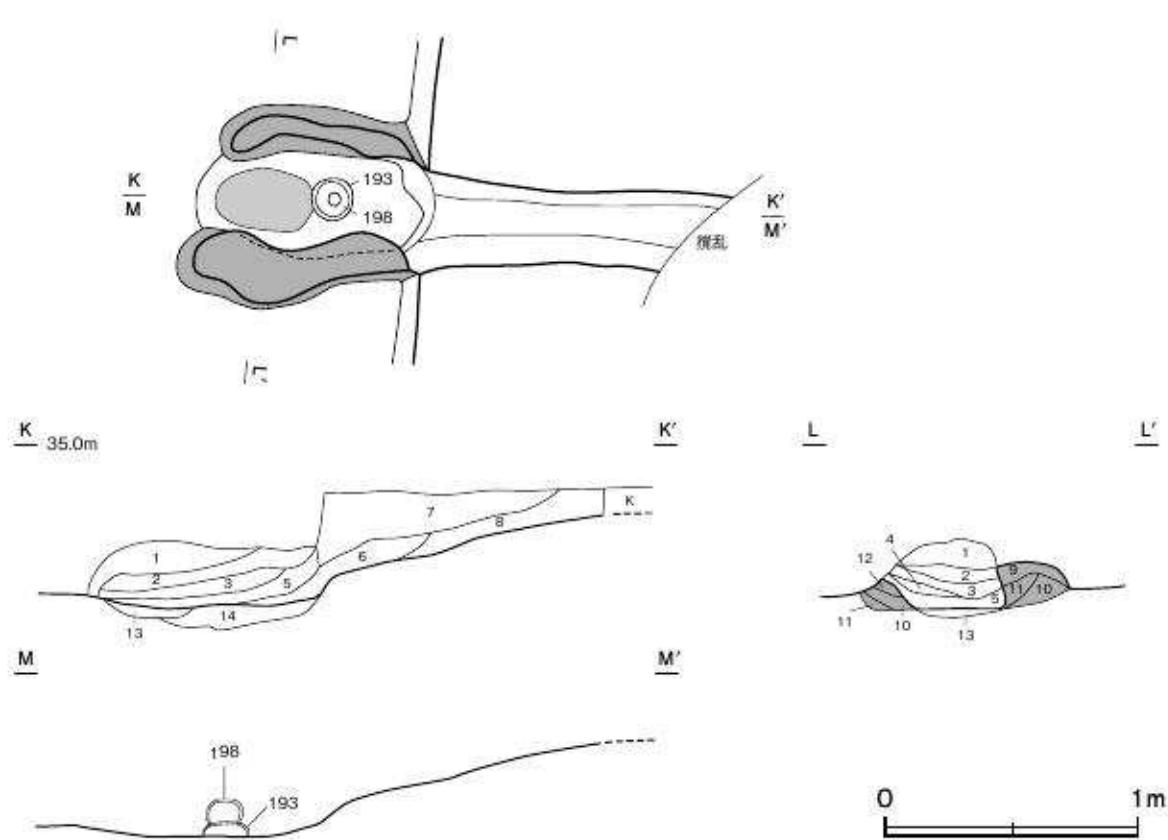
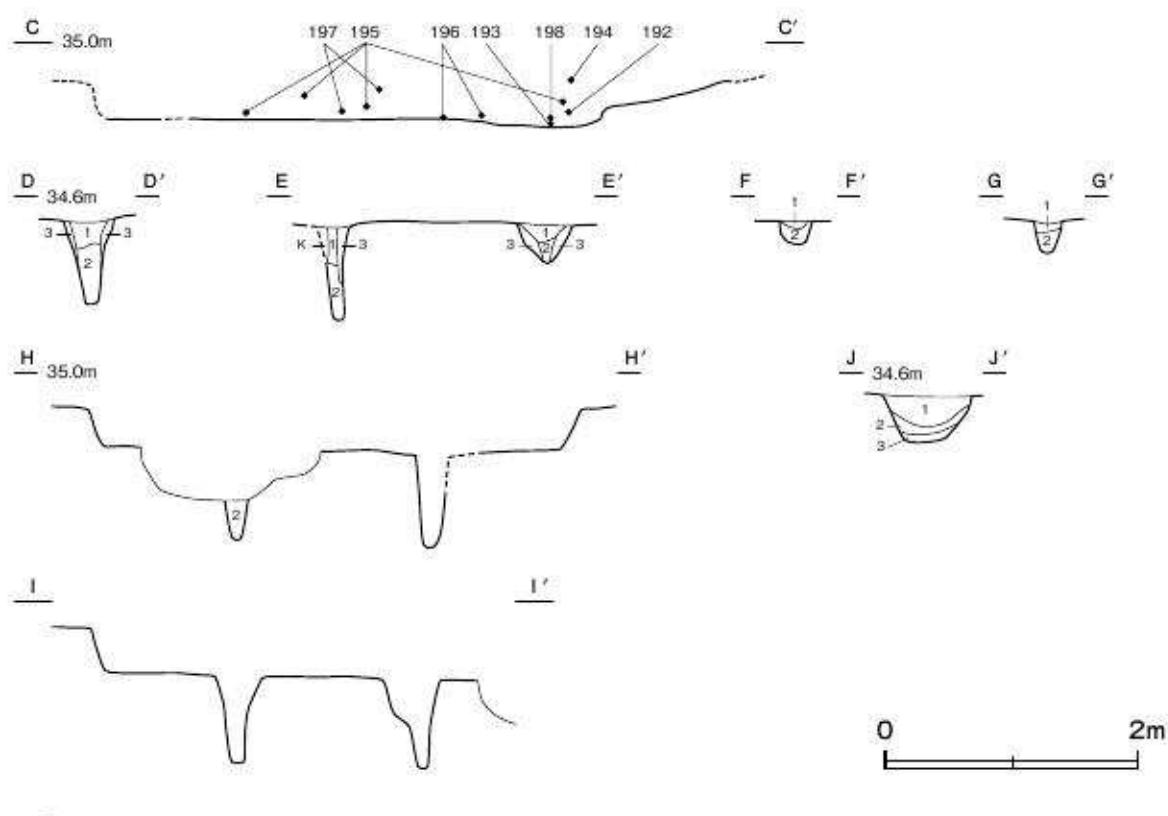
- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片226点（壺21、壺2、甕類202、小形甕1）が、北西側上層を中心に散在した状態で出土している。192は、東壁際の覆土下層から出土している。193・198は、竈内から逆位で2点重ねられた状態で出土している。土器があまり被熱していないことから、竈廃絶の際に据え置かれたと考えられる。194は東壁際の覆土上層から出土しており、斜位の状態であったため、埋め戻し土に含まれていたと考えられる。195・197は、覆土中層から下層にかけて、全体に散った状態で出土している。196は、竈の焚き口部前面の床面で出土している。

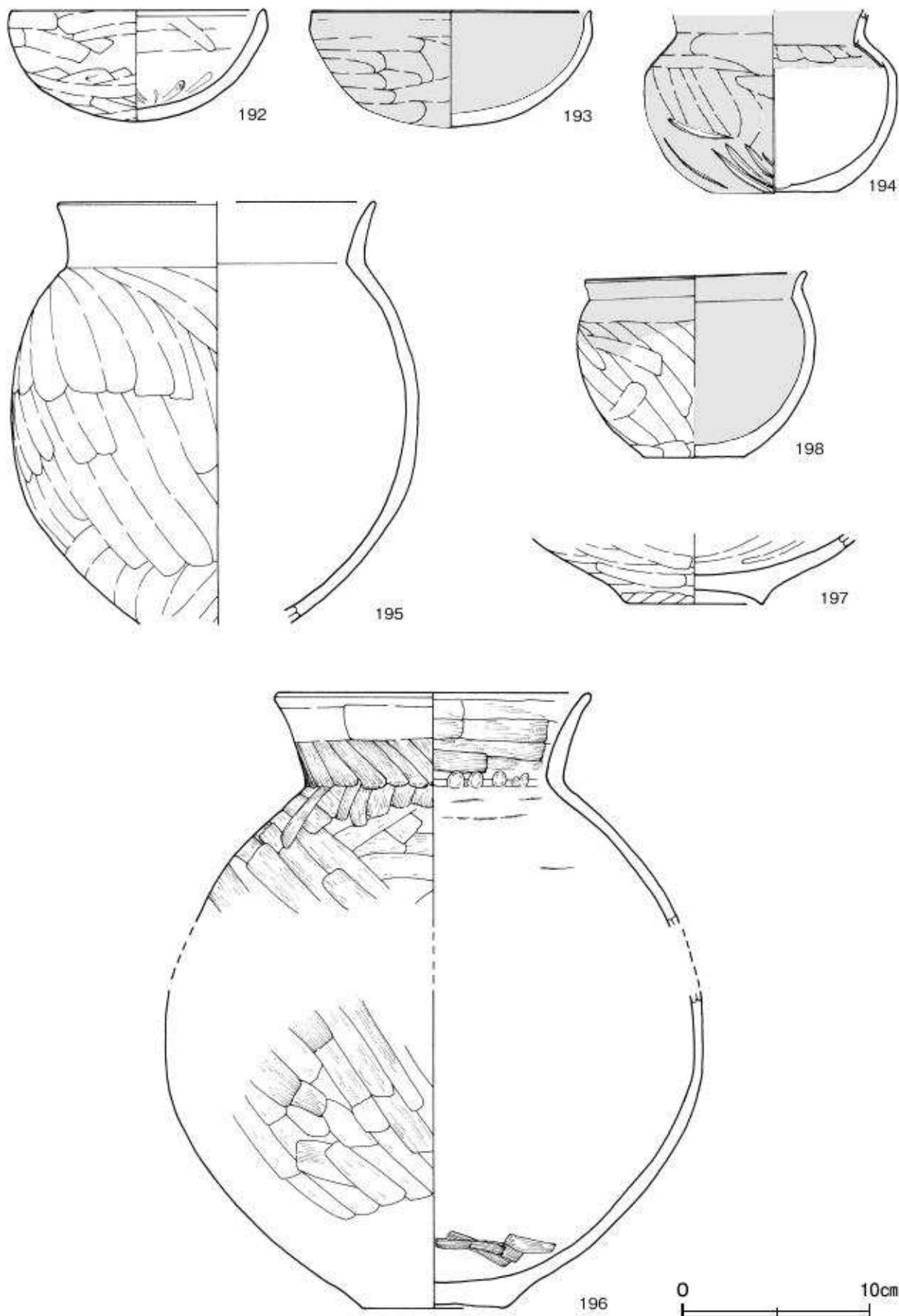
所見 時期は、出土土器から5世紀末葉～6世紀初頭と考えられる。



第112図 第51号竪穴建物跡実測図(1)



第113図 第51号竪穴建物跡実測図(2)



第 114 図 第 51 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 51 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 114 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
192	土師器	壺	13.7	5.9	—	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ後ヘラ 磨き	覆土下層	95% PL30
193	土師器	壺	15.0	6.2	—	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	普通	外面横位のヘラナデ 内面摩滅のため不明	竪火床面	90% PL30
194	土師器	壺	—	(9.7)	7.1	長石・石英	赤	普通	外・内面ヘラナデ 底部ヘラ削り残ヘラナデ 外面一部縁刻 砥石として利用か	覆土上層	50%
195	土師器	甕	[16.8]	(22.6)	—	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面ヘラナデ 内面摩滅のため不明	覆土中層～ 下層	40%
196	土師器	甕	16.8	[33.5]	7.5	長石・石英・ 黒母	明赤褐色	普通	外・内面ハケ目調査 頂部内面指頭模 底部ヘ ラ削り後ヘラナデ	床面	40%
197	土師器	甕	—	(3.7)	7.3	長石・石英	にぶい褐色	良好	外・内面ヘラナデ 底部ヘラナデ後ヘラ磨き	覆土中層～ 下層	5%
198	土師器	小形甕	11.7	9.9	5.4	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面摩滅のため不明 底部回転ヘラ削り後ヘラナデ	竪火床面	95% PL33

第 52 号竪穴建物跡（第 115 ～ 118 図 PL20）

位置 調査区南西部の Q11g3 区、標高 35.0 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 298・299・367 号土坑に掘り込まれ、第 43 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 6.22m、短軸 6.16m の方形で、主軸方向は N - 23° - W である。壁は高さ 24 ～ 37cm で直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅 7 ～ 20cm、深さ 5 cm の壁溝がほぼ全周している。床面全体に、焼土や炭化材が出土している。

竪 北壁中央部に付設されている。焚口から煙道部まで 210cm あり、燃焼部幅は 40cm である。火床部は、床面から深さ 15cm 掘り込み、第 16 ～ 18 層を埋土し、袖部は第 11 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 125cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竪土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	11 明赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量、ローム粒 子少量
2 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	12 暗褐色	炭化物・焼土ブロック・ローム粒子中量
3 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
6 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	17 褐色	ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子少量
8 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量	18 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
9 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		
10 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量		

ピット 7 か所。P 1 ～ P 4 は径 20 ～ 37cm、深さ 53 ～ 86cm で、規模や配置から主柱穴である。土層から柱痕跡と推測される。P 5 は、径 20cm、深さ 24cm で、位置から出入口施設に伴うピットである。P 6、P 7 は径 21 ～ 32cm、深さ 10 ～ 5 cm で、性格は不明である。

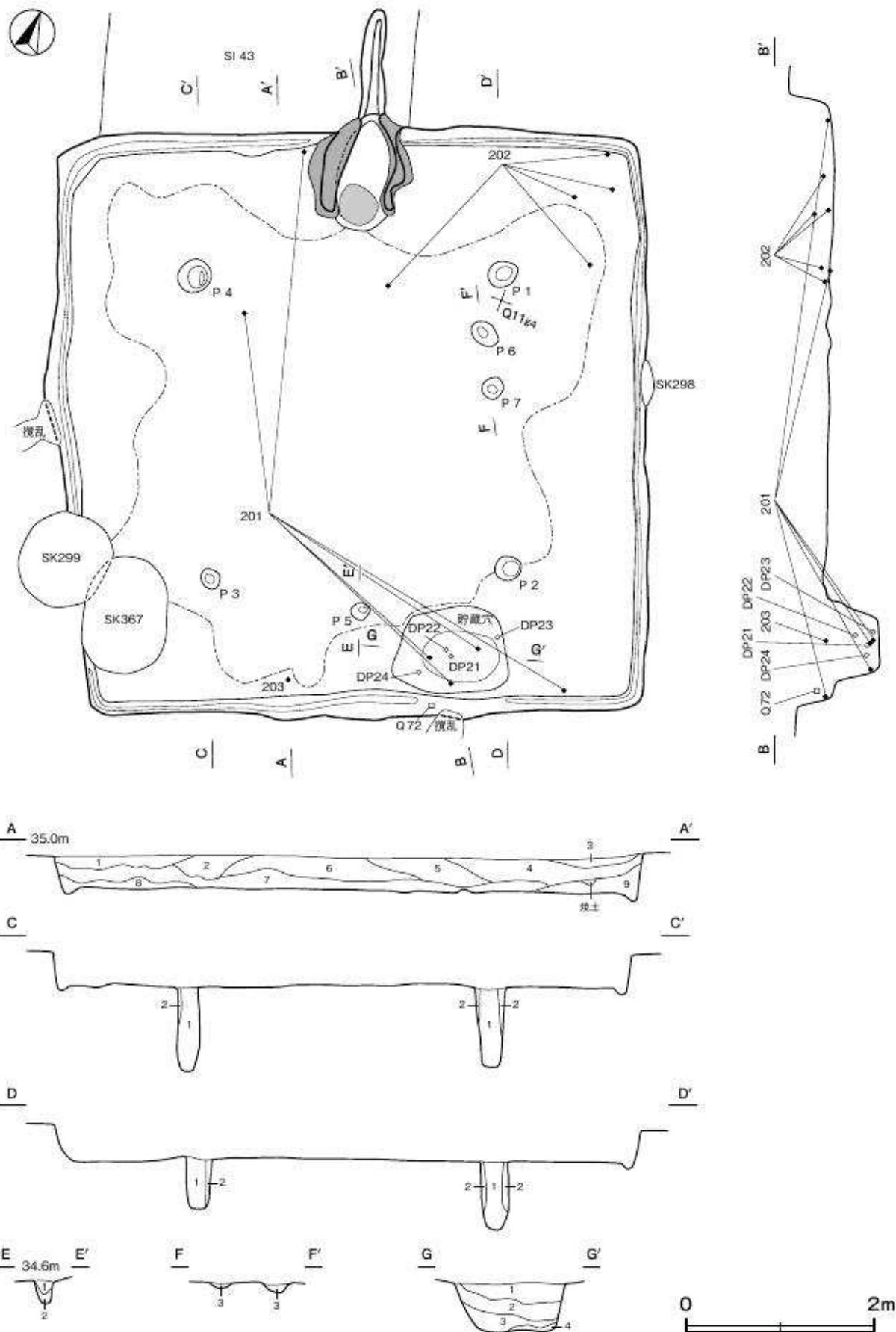
ピット土層解説（全ピット共通）

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化材微量
2 暗褐色	ロームブロック少量		

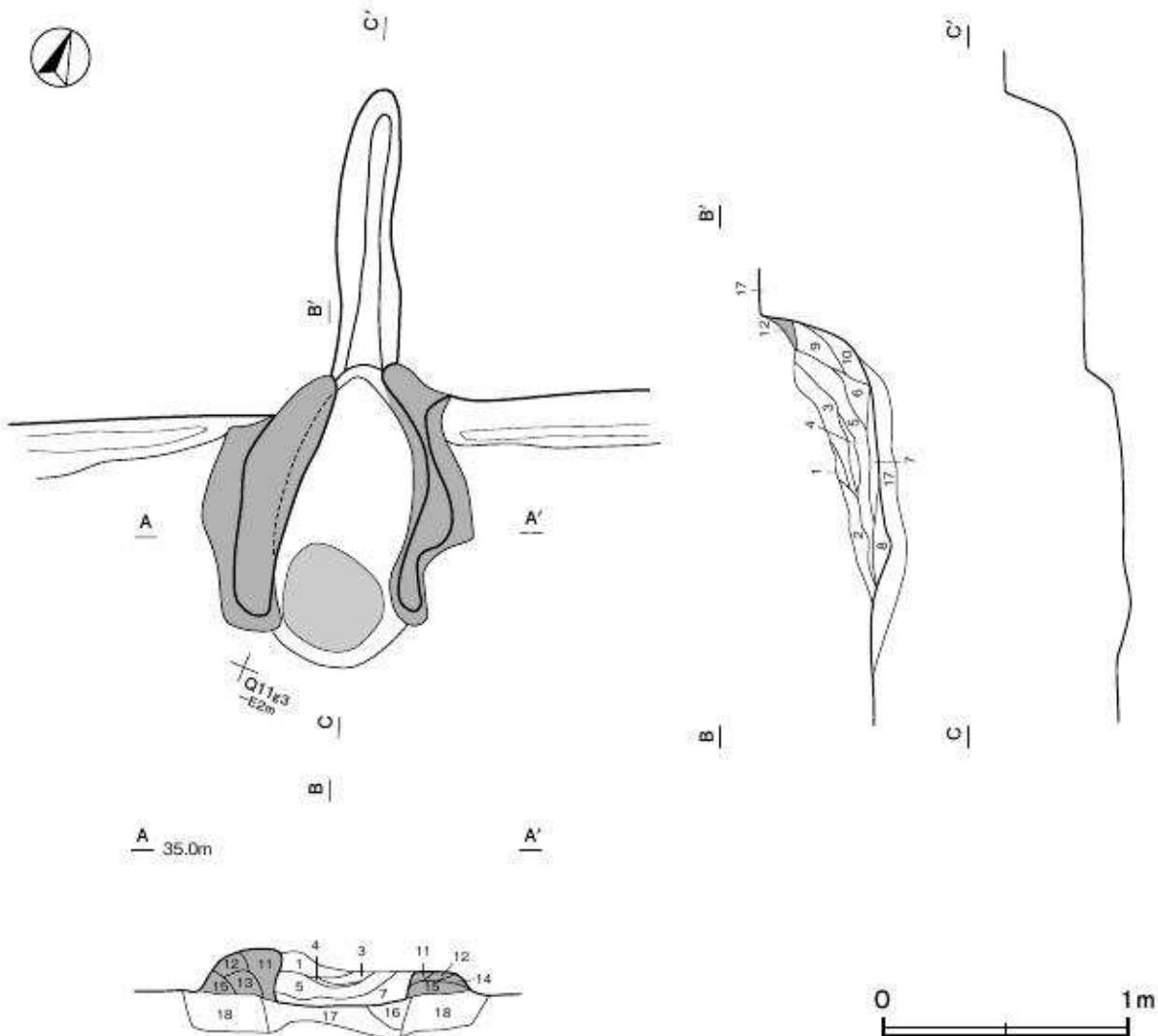
貯蔵穴 南壁際の中央からやや東寄りに位置している。長径 124cm、短径 92cm の不整楕円形で、深さ 50cm である。壁は外傾し、底面は平坦である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	3 暗褐色	炭化材中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色	炭化材・焼土ブロック・ローム粒子少量	4 褐色	ロームブロック中量



第 115 図 第 52 号 竪穴建物跡実測図(1)



第116図 第52号竖穴建物跡実測図(2)

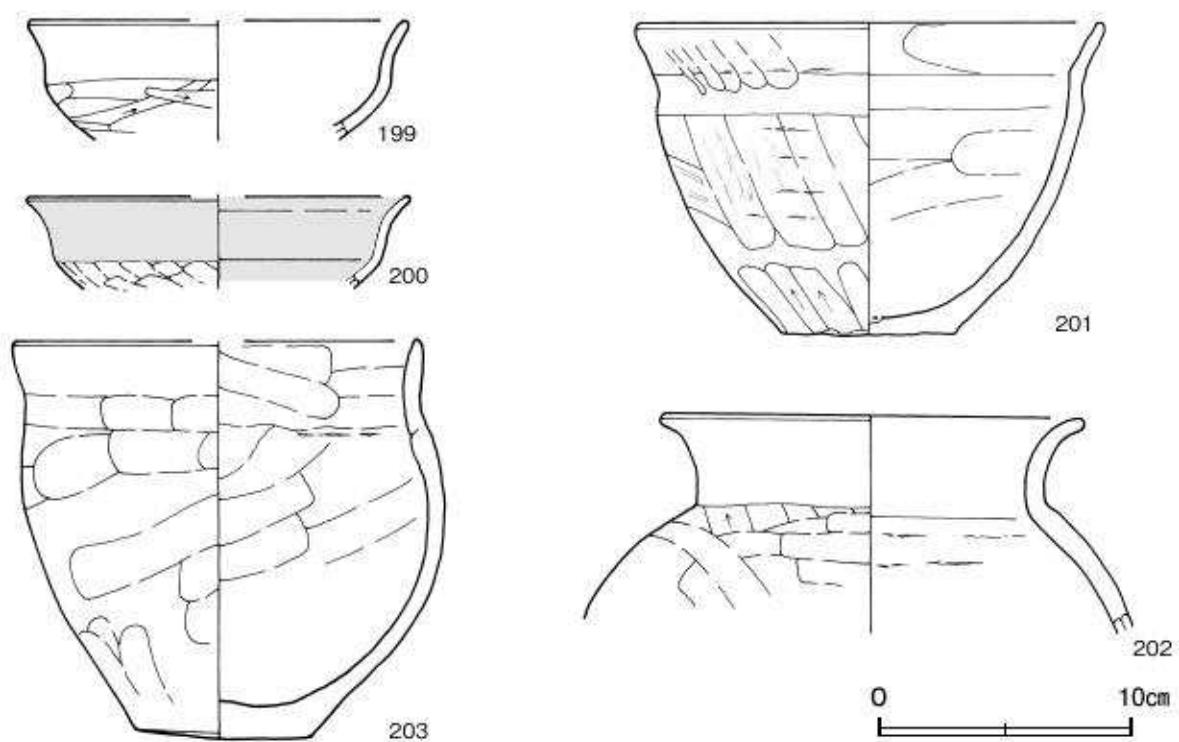
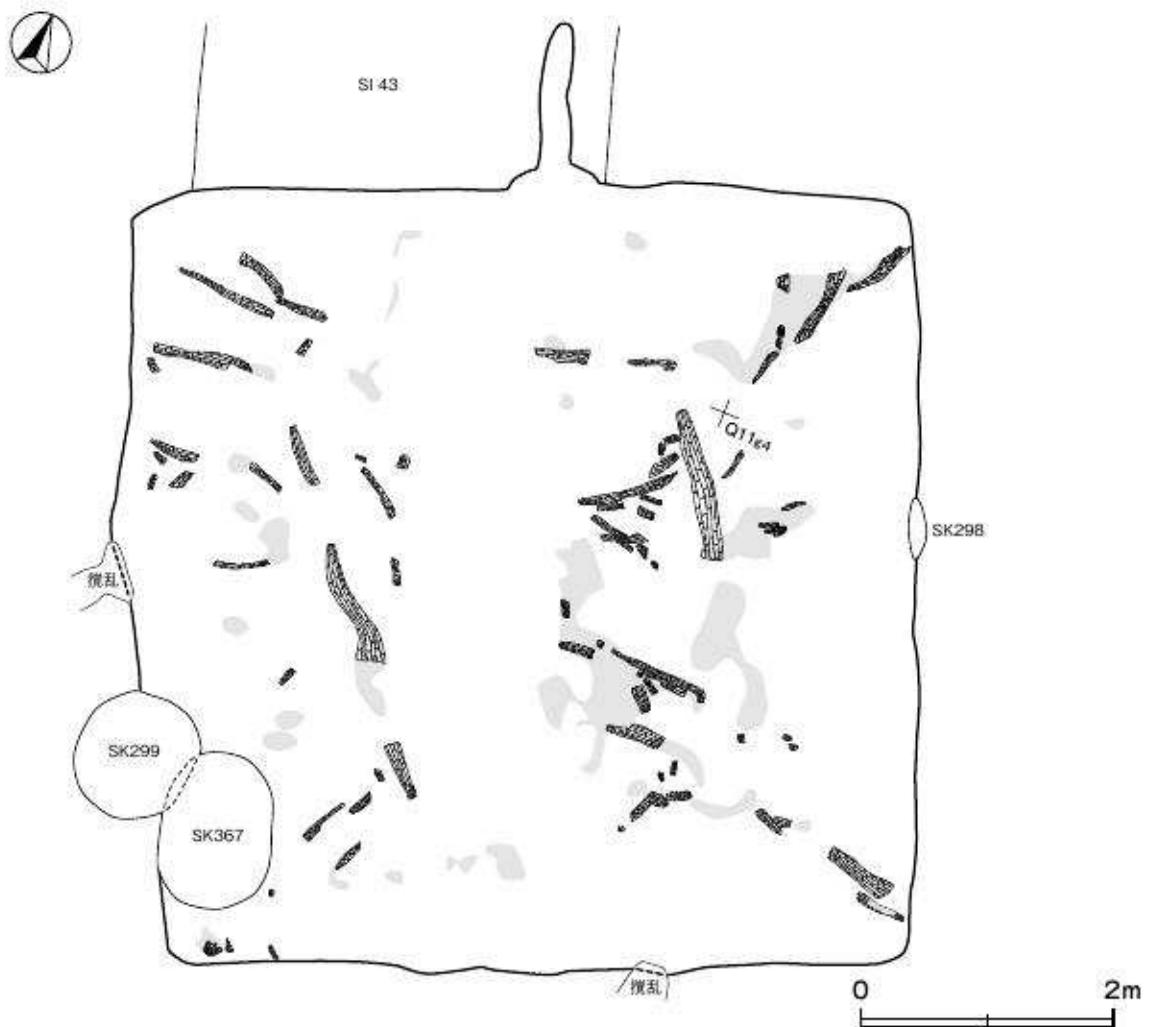
覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土・炭化材が多く含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

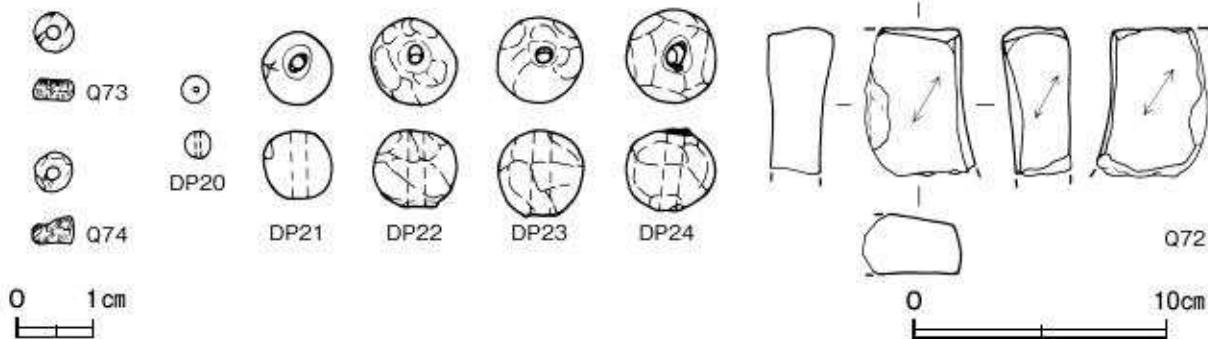
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	6 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 炭化材・ロームブロック少量、焼土粒子微量	7 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量	8 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量	9 黒 褶 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量	

遺物出土状況 土師器片249点（壺62、高壺1、小形鉢1、甕類184、小形甕1）、土製品6点（小玉1、土玉4、不明1）、石器1点（砥石）、石製品2点（臼玉）、自然遺物（炭化米）のほか、縄文土器片1点（深鉢）、石1点が、覆土上層から下層にかけて散乱した状態で出土している。203は、南壁際の床面から出土している。201は覆土中層から貯蔵穴内、202は覆土中層から床面に、散った状態で出土しているため、埋め戻し土に含まれていたと考えられる。DP21～DP24は、貯蔵穴内からまとめて出土している。Q72は、南壁に刺さった状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉～6世紀初頭と考えられる。床面から、焼土や炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第 117 図 第 52 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 118 図 第 52 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 52 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 117・118 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
199	土師器	壺	[15.0]	(4.2)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	外面ヘラ削り 内面摩滅のため不明	覆土中	10%
200	土師器	壺	[15.1]	(3.6)	—	長石・石英・磁鐵	橙	普通	外面ヘラナデ 内面摩滅のため不明	覆土中	20%
201	土師器	小形鉢	18.2	12.4	6.8	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面下部複数のヘラ削り 上部複数のヘラナデ 内面横位のヘラナデ 底部ヘラ削り後ヘラナデ	覆土下層～貯蔵穴内	50% PL33
202	土師器	甕	16.3	(8.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面摩滅のため不明	覆土中層～下層	10%
203	土師器	小形甕	[16.0]	15.8	6.8	長石・石英・赤色粒子・磁鐵	明赤褐色	普通	外・内面ヘラナデ 底部ヘラ削り後ヘラナデ	床面	50% PL33

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP20	小玉	1.04	1.10	0.21	1.13	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	全面磨き 一方向からの穿孔	覆土中	PL37
DP21	土玉	2.9	2.7	0.6	20.83	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	全面磨き 一方向からの穿孔	貯蔵穴内	PL37
DP22	土玉	3.4	3.1	0.7	32.75	長石	にぶい褐色	ナデ 一方向からの穿孔	貯蔵穴内	PL37
DP23	土玉	3.4	3.4	0.6	37.82	長石	明褐色	ナデ 一方向からの穿孔	貯蔵穴内	PL37
DP24	土玉	3.6	3.2	0.7	39.76	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	貯蔵穴内	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	砥石	(5.8)	(4.4)	2.7	(100.6)	砂岩	砥面3面	覆土下層	
Q73	臼玉	0.5	0.5	0.29	0.11	滑石	両面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 中央に稜を有する 孔径 0.15cm	覆土中	PL39
Q74	臼玉	0.55	0.55	0.32	0.15	滑石	片面平坦 全面研磨加工 一方向からの穿孔 孔径 0.18cm	覆土中	PL39

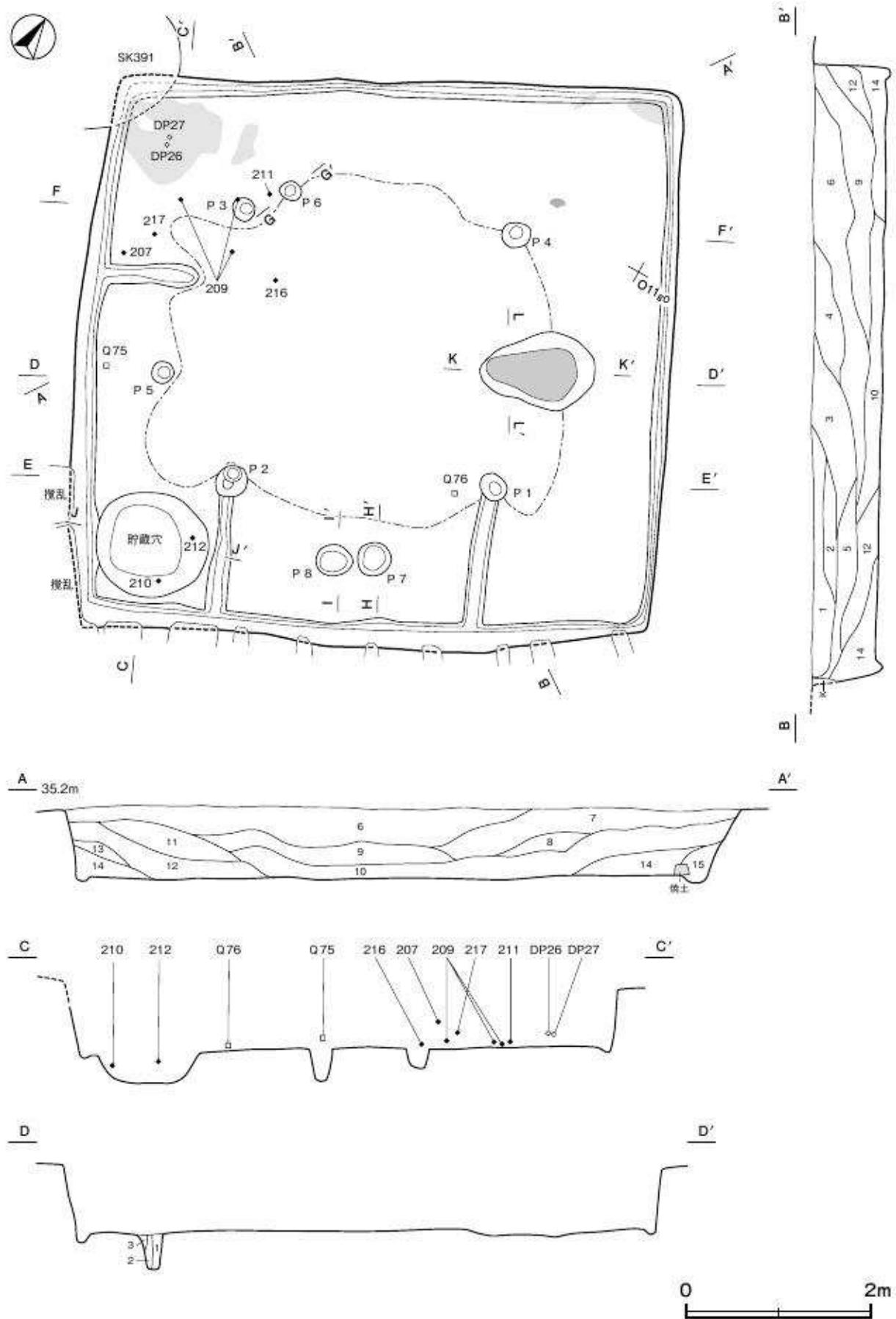
第 53 号竪穴建物跡（第 119～122 図 PL21）

位置 調査区中央部の O11g9 区、標高 35.0 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 391 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 摂乱で一部が壊されている。長軸 6.54m、短軸 6.10m の方形で、主軸方向は N - 65° - E である。壁は高さ 50～86cm で、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅 10～15cm、深さ 5～8cm の壁溝が全周している。間仕切り溝は 3 条で、長さ 96～140cm、幅 14～25cm、深さ 10～21cm である。2 条は南東壁際から P 1、P 2 に向かって、それぞれ延びて接している。1 条は南西壁際から中央に向かって延びている。焼土が、西コーナー部に集中して出土している。



第 119 図 第 53 号竪穴建物跡実測図(1)